

762  
34

虎陵吉見經綸編纂

受驗  
應用  
萬國歷史問答

附請官立學校試驗問題

大阪書肆

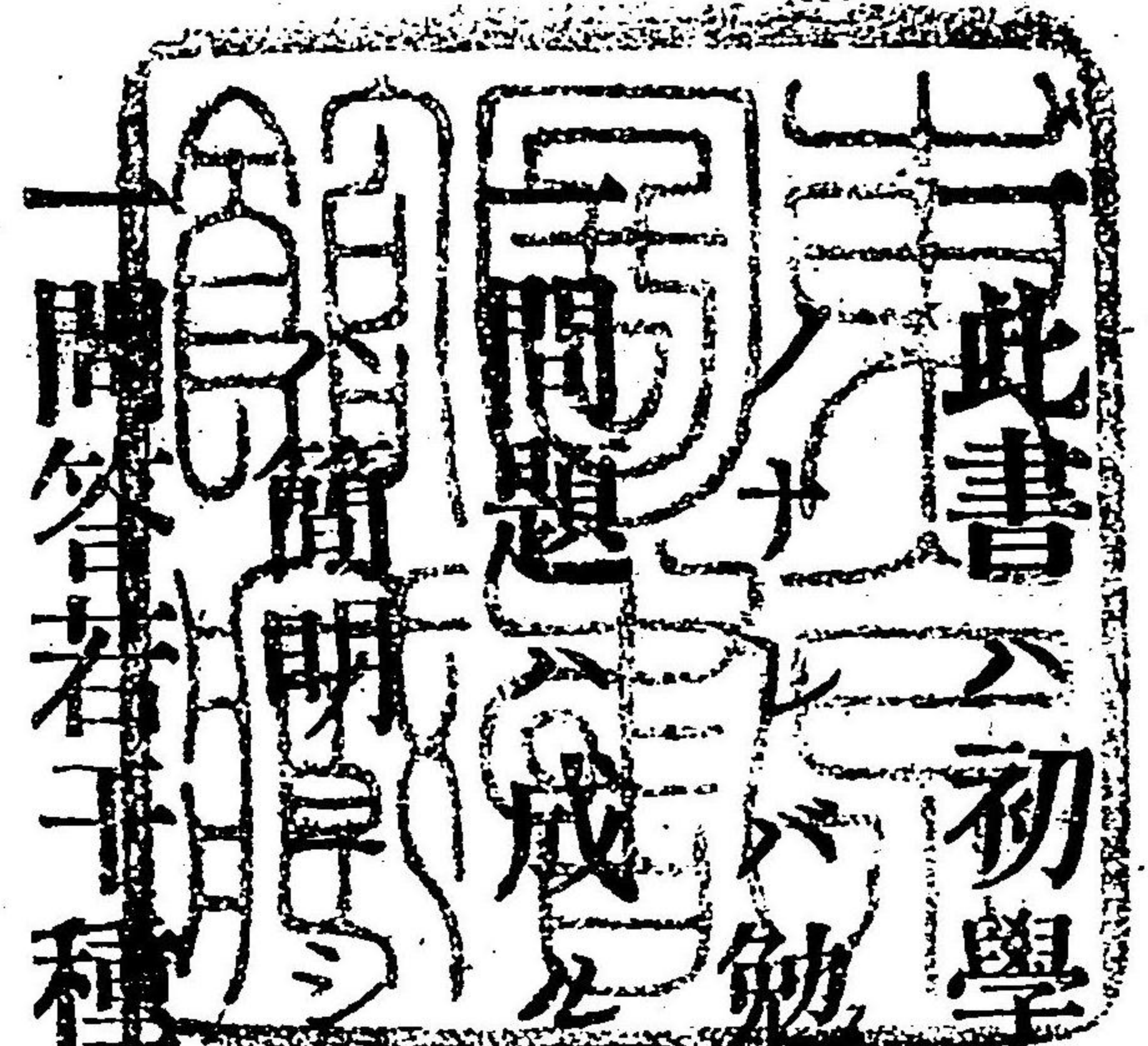
早  
善館出版

# ● 受験應用試験問題答案書出版廣告

● 吉見經綸君編纂	● 日本地理問答	● 郵稅共定價金五錢既ニ發賣	● 生理學問答
● 吉見經綸君編纂	● 日本歷史問答	● 郵稅共定價金五錢既ニ發賣	● 地文學問答
● 吉見經綸君編纂	● 倫理學問答	● 郵稅共定價金五錢既ニ發賣	● 以上九種七月中出版
● 吉見經綸君編纂	● 漢文學問答	● 郵稅共定價金五錢既ニ發賣	
● 鈴木青溪君編纂	● 教育學問答	● 郵稅共定價金五錢既ニ發賣	
● 鈴木青溪君編纂	● 萬國地理問答	● 郵稅共定價金五錢既ニ發賣	
● 鈴木青溪君編纂	● 萬國歷史問答	● 郵稅共定價金五錢既ニ發賣	
● 代理化學問答	● 幾何理論的問答	● 支那歷史問答	
● 代理物理學問答	● 算術理論的問答	● 國文學問答	

● 試驗答案	● 日本小歷史	定價 金貳拾錢	郵稅 六錢
● 試驗答案	● 日本小地誌	定價 金拾五錢	郵稅 金四錢
● 試驗答案	● 萬國小歷史	定價 金拾五錢	郵稅 金四錢
● 試驗答案	● 萬國小地誌	定價 金拾五錢	郵稅 金四錢
● 物理學試驗問題答案		定價 金拾貳錢	郵稅 金四錢
● 化學試驗問題答案		定價 金拾貳錢	郵稅 金四錢

## 凡例



此書ノ初學ノ爲ニ大要ヲ舉ケ之ヲ示セシモ  
 メテ平易簡明ヲ主ト爲セリ  
 又々普通明瞭ナルヲ主トシ答記  
 簡明ニシテ要ヲ摘ムヲ主トセリ  
 一問答若干種ヲ撰ミ初學ヲシテ普通一般ノ知  
 識ヲ研クノ用ニ供ス



明治二十五年七月

編者識

特51  
371

應受  
用驗

萬國歷史問答目次

◎第一編

上古史

開闢ヨリ第五世紀即チ紀元四百七十六年羅馬國滅亡ニ至ル

東國史

●第一章

總論

壹

●第二章

埃及國

二

●第三章

巴比倫尼亞及ヒ亞述國

三

●第四章

希伯流

五

●第五章

フチニシア國

六

●第六章

印度

七

●第七章

波斯帝國

九

◎第二編

希臘史

●第一章

總論

十一

●第二章

第一年期ノ史 ドリアンノ移住ヨリ

十二

●第三章

第二年期ノ史 波斯戰爭ノ始ヨリマセトシ王

十五

●第四章

第三年期ノ史 フイリツツア王ノ勝利ニ至ルマテ

十六

●第五章

希臘ノ文明 羅馬人希臘ヲ合併スルニ至ル

十七

◎第三編

羅馬史

●第一章

地理及ヒ人種

十九

●第二章

古代ノ羅馬(王政ノ時期)

全

●第三章 共和政事……………廿丁

●第四章 羅馬帝國……………廿四丁

●第四編 中古史

●第一章 新人種……………廿五丁

●第二章 三百年間ノ史……………廿六丁

●第三章 封建制度……………廿八丁

●第四章 十字軍……………廿九丁

●第五章 中古ノ文明……………三十四丁

●第六章 政治史要……………三十五丁

●第五編 近代史

第十六世紀ノ初ヨリ現今ニ至ル

●第一章 中古ヨリ近代ヘノ移遷……………三十八丁

●第二章 第十六世紀ノ大事件……………三十九丁

●第三章 第十七世紀ノ大事件……………四十三丁

●第四章 第十八世紀ノ大事件……………四十六丁

●第五章 第十九世紀ノ大事件……………五十九丁

●附 録

●諸官立學校入學試驗問題……………六十四丁

應用 萬國歷史問答目次 終

應用 萬國歷史問答

虎陵 吉見經綸 編纂

第一篇 上古史

開闢ヨリ第五世紀即チ紀元四百東國史

第一章 總論

●世界中人種ノ區別ハ如何ン……………

●世界ノ人民ハ其外貌骨格各々同シカラスシテ許多ノ種類アリト雖モ之レヲ大別シテ五種トナス。一ハコーカシアノ人種ニハモンゴリアノ人種三ハマレーアノ人種四ハ亞非利加人種五ハ亞米利加人種トスコークシアノ人種ハ亦白哲人種ト稱ス驢骨正圓ニ近ク顔ハ橢圓シテ前額直立シ隆鼻ニシテ其起ル所高ク顴骨突出セス口唇大ナラス身體長大ニシテ肌膚ハ卵白色ニ淡紅ヲ帯ヒ頭髮多クハ褐色ニシテ眼睛碧色ヲ帯ブ歐羅巴ノ人民ハ皆ナ此種類トリモノゴリアノ人種ハ又黄人ト名ク頭體稍々方ニシテ顔面平廣顴骨秀テ鼻高カラス皮膚ハ黄土色或ハ褐色ニシテ頭髮多クハ漆黒ナリ鬚髭少ナク或ハ無キモノアリ身體多クハ長大ナラス亞細亞ノ中央ヨリ日本支那滿州后印度等ノ人民ハ皆ナ此ノ種類ニ屬スルモノナリマレーアノ人種ハ又タ棕色人ト名ク體具稍々狭ク面廣ク顴骨秀テ身體長大ナラス肌膚黃褐色頭髮多クシテ黒ク剛カラス甚タモンゴリアノ人種ニ似タリ亞非利加人種亦黒人ト稱ス體骨狭ク左右ヨリ區ニシテ前額傾聳ヘ顴高ク鼻低廣鼻孔大ナリ口唇ハ甚タ厚ク且ツ大ニシテ前面ニ突出セルカ如シ肌膚漆黒ニシテ頭髮皆ナ縮捲スヲースタサリア、ニユ

イギニ諸島ノ土人モ亦此種類トス亞米利加人種又ハ銅色人種ト名ク骨格稍々モノゴ  
 ヲアン人種ニ近ク額骨秀テ面廣シ然レモ平カナヲス自陷リ鼻廣クシテ高ク肌膚赤色ニシ  
 テ銅ノ如ク亦タ氣候ノ爲メニ暗黒ニテ帶アモノアリ頭髮疎ニシテ鬚鬣少ナク或ハ無キモ  
 ノ多シ亞米利加州ノ土人皆ナ此人種ニ屬ス

●東方ノ古國ヲ列舉セヨ……………  
 東方ノ古國ト稱スルモノハ埃及、亞述、猶太、フチニシア、印度、波斯等ナリ

第二章 埃及國

●埃及ハ歷史上ニ如何ナル關係ヲ有スル國ナルヤ……………  
 埃及ハ世界中最新古國ト云フニアラスト雖モ政府ヲ立テ一國ノ制度ヲ設立セシハ世界中埃  
 及ノ先ニ出ルモノナシ故ニ其歴史タル亦最舊ノ歴史ナリ

●埃及ノ古國タル原因ハ如何……………  
 夫ノ有名ナルナイル河畔ハ人類ノ棲息ヲ催カセシコトハ人々ノ想像恰モ符節ヲ合スカ如  
 シ夫レナイル河ハ亞比西尼亞ノ山地及ヒ赤道亞非利加ナル大湖水ノ下流ニシテ年々其泥  
 濘スルヤ泥土堆積シテ其土質ヲ新ニスルカ故ニ從テ植物繁茂シ從テ食物低價ナレハ人類  
 ノ集合スルハ自然ノ理ニ出ルモノト言フベシ希臘ノ記者ダイオドロラス、シキユラスハ  
 十九世紀前既ニ埃及ニ旅行セシ人ニシテ其言ニ曰ク小兒ヲ養育シテ大人ト爲スノ經費僅  
 カニ二十ドラクマス(四弗)ニ過キス此事實タル埃及ノ人工ヲ増殖スルノ原因ナリト又マ

以テ其古國タルノ原因ヲ知ルニ足ルベシ

●埃及國建築ノ宏壯奇觀ナルモノハ何ソヤ其一二ヲ示スベシ……………  
 建築ノ宏壯奇觀ナルモノハ金字塔ニシテ之レ埃及王ノ墳墓トシテ造營セシモノトス其ヨ  
 イセニアル三太字塔ハ最モ著名ナルモノニシテ其第一ハ高サ四十五英尺基礎ノ平方七百  
 六十四英尺ニシテ其坪數ハ十三アールノ上ニ出ツ其第二ハ第一ヨリ僅カニ小ニシテ其  
 三ハ第一ノ半ニ過キス或ル歐効ノ學者ハ金字塔成功ノ勞力及ヒ時間ヲ計算シテ曰ク毎日  
 百五十万人ノ役夫ヲシテ之レヲ築カシムルモノ一千七百五十年ノ歲月ヲ費サザルヲ得スト  
 其壯大以テ想フベキナリ

●埃及人ノ彫像術、畫法、習字術、技術製造及ヒ學術ノ巧拙如何ヲ記セ……………  
 埃及人ノ彫像術ハ決シテ美麗ナラスト云ヘトモ其巨大ナルモノニ至テハ其技量ヲ見ルニ  
 足ルベシ畫法ハ石碑ノ内部ニ於ケル淡畫ヲ見ルニ其彩色ノ光澤ノ如キ感スルニ堪ヘタリ  
 ト雖モ其眞影ノ如キハ不精密ト言フベシ又タ習字ハ他ノ國民ニ於ケルヨリモ更ニ廣ク實  
 行シタルノミナラス古代ノ建築ニ掛ル金字塔其他碑面ニ載ス所ヲ考フレバ其技術ニ巧ナ  
 ルヲ見ルニ足ルベシ其技術及ヒ製造物ノ事タル其器械上細美ナル技術ハ以テ其熟練ヲ察  
 スルニ足ルベシ而シテ寶石ノ琢磨及ヒ鐫刻、玻璃、磁器ノ製造、木乃伊ノ術及ヒ染色術ハ  
 其熟練ノ太ナルモノナリ其學術上測量學、算學、天文學、醫學、ハ殊ニ其長所トス

第三章 巴比倫尼亞及ヒ亞述國

●巴比倫尼亞ハ又カカルデアト稱ス其ニ名稱アル所以ヲ記セ……  
 カルデアハユーフレード河ノ下流南方ノ地及ヒ波斯灣ニ適用シタル名稱ニシテ之レヲ  
 土地上一區分トス又巴比倫尼亞ハチクリス及ヒユーフレード河下流ノ間ナル砂積地ニ適  
 用シタル名稱ニシテ之レヲ政事上ノ區分トス

●巴比倫尼亞國ノ創造者ハ何人ナレヤ……  
 希伯流ノ書籍ニ依リハカウツユノ子ニムロツドナルモノ、創造スル所ナリト云フ

●亞述國ガカルデアノ專制國ヲ畧取セシハ幾世紀ナルヤ……  
 カルデアノ專制國ハ數世紀ヲ繼續シ后子遂ニ亞述國民ノ畧取スル所トナリシハ紀元前第  
 十三世紀ナリトス

●亞述帝國ノ略史ヲ示セ……  
亞述人ハ其先ヲセミツト人種トスカルデアニ居リ又チクリス河ノ上流ニ移住シカル  
 デーア人ノ管轄スル所トス然ルニ凡ソ紀元前千二百五十年獨立シテ一王國ヲ立テニ子ベニ  
 都シ爾來大ニ國境ヲ擴メ巴比倫尼亞及ヒ馬太ヲ征略シサレオンナルモノ位ニ即キ自ラ巴  
比倫尼亞國王ト稱ス其子孫ニ至リ遂ニ埃及ヲ征服ス其後四方ニ叛逆起リ國勢大ニ衰フ  
 是ニ於テ馬太人ハ巴比倫尼亞ト合從シテ首府ニチベナ國ニ遂ニ之ヲ陷レ亞述國ヲ滅シ亞  
比倫尼亞人入テ之レニ代ル

●亞述人文明ノ程度ヲ記セ……

亞述人ノ性質ハ重モニ技術、製造、建築ニ巧ミニシテ夫ノナインペノ宮殿ノ如キハ宏壯  
 美觀ヲ以テ稱セラレ彫刻術ニ於テハ埃及人ト雖モ敢テ及フ所ニアラス且ツ透明ナル玻璃  
 兩面凸起ノ硝子ノ製造寶石ノ切磋等其文明ノ一斑ヲ知ルニ足ルル

●后巴比倫尼亞國ノ沿革ヲ略記セヨ……  
前巴比倫尼亞人ハ亞述人ノタメニ其邦土ヲ奪略セラレ紀元前六百二十五年馬太國サイヤ  
 セールスノ亞述ニ侵入スルヤ巴比倫尼亞ノ大守ナホボラツサリナルモノ兵ヲ馬太ノ兵ニ  
 結合シニ子ベヲ陷レ舊業ヲ回復シテ再ヒ巴比倫尼亞ノ建設セリ之レヲ后巴比倫尼亞國ト云  
 フナホボラツサリノ子子アカト子ツザリ善ク兵ヲ用ヒ埃及王ト戰テ之レニ勝チフヲニシ  
 ア國ヲ奪ヒ猶太國ヲ滅シ其後益々國威ヲ敵國ニ示サソカ爲メ暫チ深ク壁ヲ固フシ又首  
 府ニ宮殿ヲ經營シ宏壯美麗ヲ極メタリ然レトモ其子孫ニ至テハ概シテ壓制暴虐ノ君主ニ  
 シテ奢侈ヲ事トシタレハ國勢漸ク衰ヘ國王ナホナシヤスノ時ニ至リ波斯王サライスノ滅  
 ス所トナル

第四章 希伯流

●希伯流人ハ如何ナル種族ニシテ其先ハ如何ナル人ナリヤ……  
希伯流人ハ純粹ノセミツツ族ナリ故ニフナニシア人亞刺比亞人亞述人ノ親族ナリ聖書ニ  
 ヨレバ此人民ノ祖先ハ亞伯拉罕ニシテ紀元前第二十世紀ニメソポタミアノ平原ヨリ加南  
 ニ遷ル

●希伯流ノ歴史ハ其起初ヲ幾年ト假定スルヤ……………  
 アブラハム及ヒ其子孫ノ史傳ハ單ニ牧人ノ談話ニ過キス故ニ其歴史ハイスラエル族ノ埃  
 及ヲ脱出スルトキヲ起初トス之ヲ以テ一千三百二十年ト假定ス

●希伯流人ノ本務宿任トスル所ハ如何ナルモノナリヤ……………  
 希伯流人ノ本務トスル所ハ唯タ詩人古賢ノ聖經ニ記述セル靈理正念ニ由テ世界ヲ風化ス  
 ルコト則チ之ナリ蓋シ此等ノ經籍ハ舊約全書ト稱シテ現ニ世人ノ尊重スルモノナリ

●猶太ノ二小國ニ分離シタルハ幾年ニシテ且ツ其景況ハ如何ン……………  
 猶太ノ二小國ニ分離シタルハ紀元前九百七十五年ニシテ一ハ以色列國ニシテ十二族中ノ  
 十族ヨリ成リサマリアニ都シ一ハ猶太國ニシテ自餘ノ二族ヨリ成リ耶路撒冷ニ都ス

第五章 フチニシア國

●フチニシア人ハ如何ナル種族ナリヤ……………  
 太古ノ歴史邈トシテ明カナラサルカ故ニフチニシア國ノ起原ハ之レヲ確認スルニ由ナシ  
 ト雖モ今日知ル處ニヨレバ此國民モ亦希伯流ト同シク純然タルセミツツ族ナリシト云フ  
 ●フチニシア國ハ果シテ獨立ノ數國ヨリナリシモノナルヤ……………  
 此國ハ獨立ノ數國ヨリ組成セリト雖モ其實ヲ察スレバ之レ皆ナ都府ニシテ各自ニ王ヲ置  
 キ以テ其管理ヲ受ケ唯タ危險ニ臨ンテ往々相聯合シ最モ有力ナルモノヲ仰テ盟主トナス  
 ナリ都府中シドノハ最モ舊府ニシテタイトル府ノ勢力未タ旺盛ナラサル以前ニアツテハ其

●繁昌首府ニ冠タリト云フ蓋シ權力ノタイトルニ移リタルハ紀元前一千五十年ノ頃ナリキ  
 ●フチニシア人ハ亞非利加島中ニ殖民地ヲ開キシユトアルヤ否ヤ……………  
 フチニシア人亞非利加ノ北岸ニカーセーヲ殖民地ヲ開キシハ紀元前第九世紀ノ古ニアリ  
 之レ全國ノ殖民地中尤モ著名ノモノナリ五六百年ノ后チ有名ナルハンニバルナルモノ此  
 地ニ起リ蓋世ノ武略ヲ以テ敢テ羅馬共和政事ノ大權ニ抗敵セリト云フ

●フチニシア其原ヲ起セシ近代ノ字母ノ由來ヲ記セ……………  
 フチニシア人ハ其字母ヲ希臘ニ直傳シ羅馬人ハ希臘ノ字母ニ依テ稍々之レヲ變更セリ而  
 シテ羅馬ノ字母ハ即チ近代ノ字母ノ基本トナリタリ然ルニ希臘人ハ如何ニシテ之ヲフチ  
 ニシア人ヨリ得タルカハ希臘人自ラモ尙ホ且ツ之レヲ詳ニセズ但シ其語傳ニムレバカド  
 マスナルモノ十六字ヲ携ヘ來リ其后トロイ戰爭ノ時バラミデスナルモノ之レニ加フルニ  
 四字ヲ以テシ后チ又シモノニデスナルモノ之レニ四字ヲ増加シタリト云フ

第六章 印度

●印度建國ノ起原ヲ略記スベシ……………  
 アリアン人種ノ大種族中亞細亞ニ住セル三種ノ人民アリ即チ其一ハ印度人ニシテ一ハ波  
 斯人トスアリアン人ガ曾テ共棲セシ地ハ波斯ノ東北部ニシテラクザス河トマヤクザデー  
 スノ西邊ナリトハ學者ノ定説トスル所ナリ而シテ原始ノ印度人ハ其原地ヲ去テ初テ印度  
 ノ南北部ニ住シ其インダス河ヲ渡テ此河流トマヤムナ河トノ間ニ住セシハ紀元前三千年

ニアルカ如シ此時ニ當リ印度ノ半島ニハ黑種ノ土人住居セシニ白色ノアリアン人之レヲ  
征服シ終ニ全國ニ蔓延セリ然ルニ歲月ヲ經ルニ從ヒ土人ト雜婚シ漸ク其ノ統血ヲ失ヒ且  
ツ多ク土人ノ習俗思想ヲ採用シ竟ニ殆ント其固性ヲ失ヘリ果シテ然ラハ印度ノ建國ハ土  
人ノ手ニナルニアラスシテアリアン人ノ手ニナリタルモノト云フベシ

●印度ノ族制ヲ記セ...

印度ノ族制ハ其原ヲ何レノ時ニ發シタルヤハ知ルニ由ナシト雖モ今尙ホ依然トシテ行ハ  
ル其族ニ四ノ等別アリ第一ハ僧侶ニシテ宗教及ヒ哲學ニ從事シ第二ハ士族ニシテ戰爭及  
ヒ政事ヲ司リ第三ハ農商ニシテ第四ハ職工ト役夫ナリ四族ノ下尙ホ族外ナルモノアリ極  
卑ノ勞役ヲ執ル凡各族ノ職業ハ皆ナ之レ固有ノモノニシテ各々相侵スヲ得ス而シテ異族  
相互ノ婚姻ハ一般ニ嚴禁スル所ナリ

●印度ノ古語ハ如何ナルモノナリヤ...

印度ノ古語ハ梵語(サンスクリット)ニシテ今日ニテハ之レヲ談話ニ用ヒス且ツ之レヲ解  
スルモノハ僧侶ト學士ノミ歐亞ノ學士カ始メテ此語ヲ解シタルハ前世紀末ノ事ニシテ蓋  
シ梵語ハ其語辭並ニ文法ノ希臘 羅典 日耳曼 セルツ 及ヒスラブニアノ諸語ト著シ  
ク類似スルモノナリ

●印度宗教ノ沿革ヲ記セ...

古代ノ學士ハ所謂梵語ヲ以テ書籍ヲ著述セシモノ多シ其古書中ノ最古書ト稱スルモノハ  
韋陀經ナリ是レ婆羅門教經典ノ一ニシテ實ニ紀元前二千年ノ頃ニ成ルモノトス此婆羅門  
教タル現世ニ存在スルハ一時ノ刑罰ニシテ苟モ之ヲ減輕消滅スルハ祈禱、祭獻、懺悔、  
清淨ノ力ニヨルニアリ八若シ之レヲ懈怠スレバ死后其靈魂劣等動物ノ肉體ニ舍リ再ヒ火  
宅ニ苦ムベシト云フニアリ然ルニ婆羅門教徒漸ク專横ヲ極メ人民ヲ虐遇スルニ當リテ佛  
教ト稱スル新教起レリ時ニ紀元前第六世紀ナリトス此新教祖ハ此國ノ一公子ニシテ其名  
ヲ喬答摩ト云フ是レ他教ノ弊害ヲ矯正シ以テ世道ヲ振興セント欲スルヨリ起リシモノニ  
シテ其多ク世道ヲ釐正シタルハ敢テ疑フ可キニアラス此宗教ノ傳播甚タ速ニシテ今日ニ  
アツテモ人類三分ノ一ハ之レヲ信奉ス

第七章 波斯帝國

●波斯帝國及ヒ馬太爾國人種ノ起原及其興廢ノ概略ヲ記セ...  
ザークロス山脈ノ東方ニ一高原アリ即チ古ノ以蘭ノ原野ニシテ之レニ住居スルモノ二種  
アリ一チ馬太爾ト云ヒ共ニ純正ナルアリアン人種族ニシテ東北ノ部土ヨリ此ニ移住セシ  
ヨリ爾后移住者陸續トシテ踵ヲ接シ紀元前第八世紀ニ及ベリ后チ馬太爾ノ權力漸ク強勢  
トナリ紀元前六百三十三年ニ至リ馬太爾王四方ヲ征スルノ志アリ遂ニ亞述ニ侵入シニテア  
ア府ヲ滅ホス時ニ紀元前六百二十五年ナリ尋テ兵チ小亞細亞ニ進ム王死シテ其子アステ  
ル一エーテ位ヲ繼キシカ幾モナク波斯王サライスノ滅亡スル所トナル  
●ダライス一世ハ幾年ヲ以テ王位ニ昇リ又如何ナル功業アリシヤ...



ダライス第一世ハ紀元前五百二十一年ヲ以テ王位ニ昇ル王ハサライス王ニ亞グノ大英傑  
 ムシテ善クサライスノ遺業ヲ大成セリサライスハ四方ヲ征シテ帝國ヲ建立シダライスハ  
 后ヲ承ケテ其制度ヲ確定ス而シテ波斯帝國ヲシテ殆ソト二百年間ノ平和ヲ得セシメシハ  
 實ニダライスノ特ニ制度ヲ確定セシニ因ルダライス王ハ全國ヲ分テ二十部トナシ屬國ノ  
 王ヲ廢シ本國ヨリ州令ヲ遣シテ各部ヲ管理シ任意ノ苛稅ヲ除テ定額ノ稅ヲ課セシム國道  
 ナ通シ郵制ヲ設ケ以テ四境ノ通信ヲ速ニス

●ダライス王治世中ノ重大ナル事件ハ何ゾヤ………  
 是レ希臘國ニ侵入セシ事件ヲ以テ重大ナリトス小亞細亞ヨニアニアル希臘人民ノ數府營  
 テサライスノ治世ヨリ波斯國ニ屬セシカ終ニ兵ヲ擧ケテ之レニ叛セリ時ニ紀元前五百年  
 ナリ抑モ雅典人其同族ヨニア人ヲ援ケンカ爲メ戰艦二十艘ト兵士若干ヲ以テリデアノ  
 首府サーデーイスヲ據掠ス偶々火ヲ失シ全都灰燼ニ歸ス此叛亂タル徒ニダライスノ憤怒ヲ  
 惹クニ止マリ終ニ紀元前四百九十四年ヲ以テ全ク討平セラル是レヨリダライスハ雅典人  
 ナ懲罰センカ爲メ其婿ヲシテ大軍ヲ將テ雅典ヲ擊タシム會々軍艦大風ノ爲メニ破壊セラ  
 レ勝タスシテ退クダライスノ憤怒益々激烈トナリ更ニ紀元前四百九十年ノ春デアーテイス  
 ナシテ大軍ニ將タラシメセーモス島ヨリ小艦六百艘ヲ以テエシアノ海ヲ航シクレデー  
 諸島ヲ降シエレトリアヲ略シマラツン灣ヨリ上陸ス此時希臘人モ亦兵ヲ出シテ之レヲ防  
 ガントシ兩軍逐ニマラツンノ原野ニ會戰ス此時雅典ノ軍一万援兵六百然レトモ其兵ハ勇

●ニシテ且ツ愛國心ニ富ミ加フルニ曉將ミルチアデス之レヲ指揮スルヲ以テ殆ソト十万人ノ  
 波斯人ニ當テ大ニ之レヲ敗レリ此ニ於テダライスハ后將サニ再擧テ計ラントスルニ臨ミ  
 俄ニ死ス之レヲダライス治世中ノ重大ノ事件トス

●波斯人ノ性質ヲ示スベシ………  
 其初テ史上ニ現ハレシトキハ強猛ノ山族ニシテ總シテ勇アリ其風俗ハ粗樸其慣行ハ單純  
 ニシテ飲酒ヲ好マス衣食ハ總テ驕奢ヲ賤ミ天才富ムニアラサレトモ機敏壯快ニシテ詩歌  
 美術ヲ好メリ然ルニ后世ニ至ツテ其高尚ナル性質ヲ失シ亞細亞州中ノ一賤族トナレリ

●此國ノ政事ハ古代善美ノ稱アリシヤ否ヤ………  
 此國ハ唯々漠然タル數國ノ集合ニアラス眞ニ一帝國ノ体裁ヲ備ヘシハ其政法ノ寛和ニシ  
 テ之レヲ東洋諸國ニ比スレバ大ニ超越セリ故ニ古代ノ萬國中ニ在テ高尚善美ノ稱アリ

第一篇 希臘史  
 第一章 總論

●希臘人ハ如何ナル種族ナルヤ………  
 希臘人ハアリアン族即チインドユーロッパ族ノ一部ニシテ此族中ニハ歷史上歐羅巴諸族  
 及ヒ亞細亞ノ波斯人及ヒ印度人ヲ合蓄ス故ニ希臘人ハ羅馬人ト密接ノ關係アルモノニシ  
 テ此ノ遠祖ハ皆チ夙ニ亞細亞ヨリ歐羅巴ニ來リ其後一ハ中央ニ住ス即チ羅馬人ナリ  
 ●ギリースナル名稱ノ原因ハ如何ン………

希臘ナル名稱ハ羅馬人ヲ下シタルモノニシテ希臘人ノ知ヲサルモノトス希臘人ハ自國ヲ稱シテヘルラスト云フヘルラストハ希臘人ノ住居セル土地ノ總稱ナリトス

●英雄時代トハ如何ン………

古典時代ノギリクス人ニ係ル歴史ハ一トシテ真正ノモノナク但タ華麗ナルモノアリテ此欠ヲ補フノミ此書ハ英雄ノ功業ヲ記スルヲ以テ之レヲ英雄時代ト云フ

●ホーメル時代ノ事情ヲ述フベシ………

ヘルラス族ノ盛ナル時ハ即チホーメル時代ニシテ其詩ニ述フル所ヲ見レバ第一王政ノ普ク行ハレシコト第二書契以後ニアリテハ都府ハ即チ邦國ナレドモ當時ハ即チ然ラスシテ種族即チ邦民ノ都府ヲ制御セシコト第三世襲ノ貴族王ノ參政官タリシコト第四一議會アリ王命ニ依テ集會シ通報ヲ受ケ且ツ審判ヲ檢スルモ助言或ハ審判ヲ爲サ、ルコト第五一夫數婦ノ制アラスシテ大ニ婦人ヲ尊重セシコト第六奴隸制度各處ニ行ハレ人之レヲ認メテ正理トナセシコト第七諸種族諸邦民ノ間ニ戰爭止ム時ナク武徳ヲ之レ重ンセシコト第八宗教上ノ感情強盛ニシテ衆神ト運命ヲ信仰シ僧侶ヲ尊敬シ殿堂及祭時ヲ崇尊セシコト

●第二章 第一年期ノ史………

●希臘ノ二大族ヨニアソ及ヒドリアンハ其性質ヲ異ニスル著シト云フ各々其政事上ニ顯ハレドリアン族ハ風俗純樸ニシテ貴族政事ヲ貴ヒ又最惡ノ奴隸制度ヲ施行セリヨニアソ族ハ

之レニ異ナリ性質爽快輕佻ニシテ共和ノ氣象ニ富ミ商賣ヲ厲ミ雅樂ヲ好ミ而シテ美術ヲ愛セリ故ニヨニアソ族ノ代表者タル雅典人トドリアン族ノ雄邦タル斯波多トノ間ニ深ク仇敵ノ心ヲ醸シタリ

●紀元前第八世紀中ニ於ケル希臘ノ政体如何ヲ畧說セヨ………

彼ノホーメルノ所謂英勇時代ニ在テハ諸族尙ホ王政ノ下ニアリシモ此ニ至テ其政事既ニ共和トナリ人民相集テ自由ノ小邦ヲナシ各々獨立シテ小領地ヲ有セリ其政論ノ發達迅速ナリシハ主トシテ之レニ因ルヤ疑フベキニアラス蓋シ斯波多ハ尙ホ王名ヲ存セリ

●希臘正史ノ始メニ當テ斯波多人ハペロボン子サスニ在テ獨リ其權力ヲ恣ニシ他邦ヲ駕御セ

リト果シテ何等ニ原因スルヤ………

斯波多人ノ此ノ如クペロボン子サス諸邦ニ冠絶シタルハ主トシテ其制度ノ主別ナルニ因由セリ口碑ニヨレハ此制度ハ立法者リカガスノ制定スル所トナス今其概略ヲ擧グレハ一國ノ童子、財物、土地、ヲ擧ケテ公有トス小兒生レテ不具虛弱ナレバ之レヲ殺ス男兒七歳ニ及ベハ其家ヲ辭シ官撰教員ニ就キ武事ヲ習フ而シテ六十歳ニ至ルマテ軍務ニ服事ス又質素廉直ノ風ヲ養成センカタメ貴賤老少ヲ問ハス皆十公堂ニ會シテ飲食ヲ同フシ尊ヲ田獵武藝ヲ演習セント他國ニ出遊スルヲ禁ス又夕衣食住ノ華美ヲ制限シ金庫ヲ所有スルヲ禁停シ貨幣ハ悉ク鉄錢トナセリ此法タル獨リ武力ヲ強クスルニアルナリ

●斯波多ノ憲法ハ如何ン其一班ヲ説ク可シ………

此國ノ憲法タル一種特異ナリニ王並立シテ共ニ陸軍ヲ統轄シ又公祭ヲ司ル然レトモ其權  
力タリ有名無實ニシテ常ニ元老院及ヒ民會院ノ爲メニ制限セラル此民會院ハ毎年五名ノ  
官吏ヲ撰擧ス之レヲ執政官ト云フ諸般ノ權力ヲ掌握ス故ニ其相貌ハ立君政事ナリト雖モ  
其實寡人共和政治ナリ

●ドレゴノ法律ハ如何ナルモノナルヤ……………  
雅典國民ハ漸ク其政體ニ不滿ヲ抱キドレゴト稱スル政治家ヲシテ法律ヲ規定セシメタ  
リ之ノ紀元前六百二十四年ノコトニシテ之レヲドレゴノ法律ト云フ此法律タル極テ嚴  
峻ナルモノニシテ罪ヲ犯スモノハ其輕重ヲ問ハス擧テ之レヲ死刑ニ處シ小盜ヲ罰スルニ  
濱神殺人ヲ罰スルト毫モ異ナル所ナシ人此法律ヲ呼テ血書ト云ヘリ

●ドレゴノ法律改革ノ原因及ヒソロンノ法律如何ヲ略記セヨ……………  
ドレゴノ法律未タ以テ人民ノ不滿ヲ鎮ムルニ足ラス貴族ノ傲慢遂ニ民心ヲシテ破裂セ  
シメ雅典ハ一時無政ノ状態ニ陥ル之レ此法律ヲ改正スルノ止ムヲ得サリ所以ナリ然ル  
ニ紀元前第六世紀ノ初メソロンナルモノ出テ、此厄ヲ救フソロンハ是ヨリ先撰ハレテ執  
政官ノ一人ナリシカ今ヤ雅典ノ憲法改正ヲ委任セラレ善ク此業ヲ遂ケ國家福祉ノ基礎ヲ  
確定セリ時ニ紀元前五百九十四年ナリソロンハ憲法ノ主眼タル貴族ノ抑壓政治ヲ廢シテ  
之レニ代フルニ由和ノ政治ヲ以テシ府民ヲ皆テ參政ノ權ヲ有セシメ而レテ其權利ノ  
過半ヲ貴族ニ與ヘントスルニアリ

●雅典ノ純然タル民主政治トナリタル概略ヲ記ス……………  
ソロンカ法律ヲ改正セシヨリ黨派ノ爭鬪ヲ惹起シヒシストヲタスナルモノ政權ヲ掌握シ  
寬政ヲ施シ技術ヲ獎勵シカチ國ニ尽シ政權ヲ其數子ニ傳フ然レトモヒシストヲタスノ寬  
政ハ五十年ニシテ紀元前五百十年其一族ノ追放セラル、クリスセ子スト稱スル一貴族代  
テ政權ヲ掌握シ民權ヲ擁護シ自由ノ民ニ與フルニ撰擧權ヲ以テシ且ツ憲法ヲ改正セリ於  
是乎純然タル民主政治トナリ國民ヲシテ大ニ愛國心ヲ喚起セシメタリ

第三章 第二年期ノ史 波斯戰爭ノ始ヨリマヘト王  
アイリツツノ勝利ニ至ルマテ

●サテミス戰爭ハ而軍孰レカ全勝トナリシヤ……………  
サーシス王ノ軍漸ク將サニ雅典府ニ近カントスルヤ府民ハ神托ニ依テ陸地ヲ去テ船ニ移  
レリ敵兵遂ニ雅典府ヲ零レ火ヲ放テ之レヲ灰燼ニ歸シタリ今ヤ希臘全國ノ存亡ハ將サニ  
一擧ノ海戰ニ決セントス是レヨリ先キ希臘人ハ艦隊三百六十六艘盡ク之レヲサテミス灣  
ニ屯集セシメタリ波斯人ハ曩キニ大風ノタメニ艦隊ヲ損害セラレシト雖トモ猶大約一千  
餘艘ヲ餘セリサーモペリノ戰后兩軍二閱月ニシテ各戰備ヲ爲ス然ルニ此戰爭ヤ希臘人  
ノ全勝トナリ波斯人ハ兵艦二百餘隻ヲ失フサーシス恐怖シテ爲ス所ヲ知ラス來路ヨリ本  
國ニ退ク時ニ紀元前四百八十年十月ナリ

●ペリクルスノ小傳ヲ記セ……………  
ペリクルスハ雅典ノ爲政家ニシテ能ク軍事ニ熟シ其身ハ平民ヨリ起キテ雅典ノ政權ヲ左

右セシコト四十年間ニシテ真正ノ民主政治ヲ行ハシカ爲メ大ニ高等法院ノ權ヲ削リ又  
裁判官及ヒ軍人ノ俸給ヲ定メ且ツ壯麗ナル高堂ヲ造營シ學術技藝ノ道ヲ講シ以テ文明ヲ  
獎勵セリ然ルニ紀元前四百二十九年雅典ニ惡疫流行スルニ當テ又其犠牲トナリ其死ニ臨  
ミ朋友、故舊等病床ニ環侍シ其偉蹟榮譽ヲ讚稱スベリクルス曰ク卿等忘レタルカ余ノ品  
性中尤モ美ナルモノハ唯ターアルチ己レノ行爲ノ爲メニ未タ曾テ同胞ノ一民タモ喪服ヲ  
着スルノ悲境ニ陷レタルコトナント

●齊武士ノ興起及ヒ其強盛ノ時代及ヒ齊武士ト斯波多トノ戰爭ノ結果ヲ略説スベシ……  
齊武士ノ名士エバミノソダス及ヒペロヒダスハ斯波多ノ苛政ヲ惡ミ民心ヲ鼓動スルヤ齊  
武士人此二名士ヲ推シテ大將トシテ紀元前三百七十一年スバルタトリユークトヲノ決戦  
ニ於テ遂ニ之レヲ破リ希臘ノ主國トナリ紀元前三百六十二年ニ至ル而シ齊武士人ハ斯波  
多人トマンデイヤニ戰フヤエバミノソダス捷戰ノ中ニ斃レ齊武士遂ニ衰フ此兩國ノ戰  
争ハ大ニ希臘ノ國力ヲ損シ遂ニマセドン王フイリツツ王ノ爪食スル所トナル

第四章 第三年期ノ史 フイリツツ王ノ勝利ヨリ羅馬  
希臘ヲ合併スルニ至ル

●フイリツツ王ノ功蹟ヲ舉ケヨ……  
紀元前三百五十三年王ノ國政ヲ握ルヤ功名心益々增長シテ遂ニ征服ノ大謀ヲ企ツ雅典ノ  
雄辨家デモスセ子ス之ヲ知リ喋々之ヲ鳴ラズト雖トモ人之レヲ顧ミルモノナシフイリツ  
ツ王ハ紀元前三百五十八年ノ頃ヨリ公然雅典ヲ侵伐シ二十年ノ后希臘ノ國主トナル蓋シフ

偉蹟ハ其密聚軍法ナルモノヲ用ユルト其術數ニ富ミタルトニ依テナリ是於テ  
宣言シテ曰ク余波斯ヲ討シ以テダリマス等ノ入寇ニ報ヒント是レ自ヲ爲メニスル妙策ニ  
シテヘルヲス全國民ヲシテ虛想ヲ盈タシメタリト雖ヒ未タ其謀略ヲ施スニ暇アララス臣下  
ノ爲メニ暗殺セラル時ニ紀元前三百三十六年ナリト

●歷山大王ノ大阜頭ヲ建テタルハ何國ナリヤ……  
是レ埃及國ニシテ之レチアレキガンドリアト名ツク蓋ジイツサスニ於テ波斯ノ大軍ニ勝  
チ又一轉シテマイル及ヒガサーヲ征シ進メテ埃及ヲ平ケタルノ時ニアリトス

●歷山大王印度遠征ノ事情ヲ述フベシ……  
大王カ波斯ノ三都ヲ滅ボスマ既ニ西亞細亞ノ君主トナル時ニ歲甫メテ二十五然レトモ王  
ノ功名心益々勃興シ東方ノ盛都ニ安居スル能ハス土地人民ノ征服スベキモノアレバ益々  
進メテ之レヲ征セントセリ東方ニ新國アリテ殷富ナルヲ聞クヤ王心ヲ決シテ其境ニ入ラ  
ントス遂ニ進メテハイフアシス河邊ニ達ス此河ハ北印度ノ地ニアリ王遂ニ其地ノ王公ヲ  
降シタリ

第五章 希臘ノ文明

●希臘人ノ政治思想ハ如何ナル結果ヲ生セシヤ……  
東洋諸國ハ皆ナ專制政治ニシテ君主專權ヲ握リ臣民ハ恰モ奴隸ノ如ク一モ政治上ノ所謂  
ル人民ナルモノナシ然ルニギリクス人ハ自由自治ヲ實行シ世界ニ示スニ民主政治ノ的例

ヲ以テシタリ故ニ其政治思想ノ結果ハ大ニ世界ノ文明ヲ資益セシト鮮少ナラス  
希臘古代哲學ノ沿革ヲ記セヨ……………

●希臘古代哲學ノ沿革ヲ記セヨ……………  
哲學ハ始メテ小亞細亞及ヒ下伊太利ノ希臘殖民地ニ於テ之レヲ講習ス小亞細亞ニ於テセ  
リス之ヲ研究シヨニツク學派ノ基ヲ開キ下伊太利ニ於テハピサゴラス及ヒ其他希臘古  
代ノ賢哲ハ專ラ物理學ヲ研究シ紀元前第五世紀ニ至テ詭辨學及ヒ修辭學ノ徒續テ起リ論  
理修辭ノ二術ヲ講説シ雅典ニ聘セラレテ少年ヲ教導セリ

●婦女ノ地位如何ヲ記スベシ……………  
ホーメルノ生時ニ當テハ婦人ハ家内ニ占ムル所ノ地位后世ヨリモ高キカ如シト雖トモ降  
テ史錄以後ニ至テハ夫ノ妻ヲ遇スル僅ニ忠婢ニ等シ故ニ婦女ヲ教育スルノ法只タ家事ヲ  
料理シ小兒ヲ養育シ及ヒ下婢ヲ監視スルノ藝術ヲ得セシムベキ心教ヲ施スヲ以テ足レリ  
トセリ

●希臘人教育ノ一斑ヲ記セ……………  
國家ヨリ資金ヲ出シテ學校ヲ保持セスト雖トモ子弟ノ日々登校スルハ一般ノ習慣トナレリ  
然レトモ之レ男子ノミトス少年教育ヲ三部ニ分ツ曰ク文法曰ク音樂曰ク体操是ナリ學校  
教師ヲ文法家ト稱ス然トモ希臘人ハ文法ノ名稱中初歩教育ノ大抵ヲ屬シ音樂ノ名稱中諸  
般ノ藝術ヲ屬セリ又体操ノ種類種々アリ角力、馳走、拳闘其他此種類ノ操法ヲ爲シ以テ  
身体ヲ強健ニス

### 第三篇 羅馬史

#### 第一章 地理及ヒ人種

●伊太利ノ最古代ニ四大族アリ其名稱ヲ列舉セヨ……………  
ゴール族エトラスカソ族ヤビシヤン族伊太利本族是ナリ蓋シゴール族ハ北部伊太利ノ大  
半ニ住居シエトラスカソ族ハエトルリアニ住居シヤビシヤン族ハアピュリヤ及ヒ半島ノ  
趾部ニ住居セリ

#### 第二章 古代ノ羅馬 (王政ノ時期)

●古代羅馬國ノ組織如何ヲ略記セヨ……………  
古代羅馬ノ都民ハ國初ヨリ貴族平民ノ二族ニ分ル凡ソ僧官ニ就キ高僧トナリ公地ヲ所有  
シ性氏ヲ用ユルノ權利特許ハ一ニ貴族ノ有スル所ナリ故ニ古代ニ在テハ實ニ貴族ノミ所  
謂政治ノ人民ニシテ只ニ元老院議員ノ其族ヨリ撰舉セララル、ノミナラスコシテイユ  
リアタト稱スル一民會モ亦貴族ノ集合タリ故ニ平民ハ當時自由ノ民ニシテ一身ノ獨立權  
アリト云ヘトモ政權ハ全ク之レヲ有セス

●第五王サープイアスタリアスノ手ニ成レル改正憲法ノ範圍如何ヲ述ベヨ……………  
第五王即チ世ニ所謂庶民王ハ大ニ羅馬國ノ憲法ヲ改正シ新ニコシテイアセンテユリアタ  
ト稱スル國會ヲ開設シ以テ平民ニ參政權ヲ分チ貴族ト等シク投票スルヲ得セシメタリ蓋  
シ此新國會ニ於テモ舊族及ヒ富者ヲシテ最モ多ク發言セシムベキ制度ナリト雖トモ其制限

アルニ據ハラス此新憲法ニ由テ羅馬内ノ自由民ハ皆ナ參政ノ權利ヲ享有セルヲ以テ平民ノ此惠ニ浴スルコト實ニ少々ナラサルナリ

第三章 共和政事

●平民貴族トノ第一次分離ノ原因及ヒ其結果ヲ述フベシ……  
古代羅馬ニ於テ他ノ古代諸國ノ如ク負債ヲ償還スルコト能ハサルトキハ其債主ノ爲メニ捕ハレ或ハ鍵鎖ニ繫カレ或ハ奴隸トシテ苦役セラル、ノ恐アリシカ共和政ノ始メ貴族ハ此負債法ヲ實施シテ巧ミニ平民ヲ苦シムルノ器械トナセシモノ、如シ要スルニ共和政ノ建立セラレシヨリ戰爭相繼キ平民大ニ疲弊シ債ヲ貴族ニ負ヒ隨テ奴隸ノ情境ニ陥ルモノ百ヲ以テ算スルニ至リ平民ノ精神全ク阻喪シ貴族實際ニ於テ一切ノ權力ヲ掌握シ其抑壓益々甚クシク竟ニ其堪エベカラサルニ至リ平民相議シテ羅馬ヲ去リ府ヲ距ル四里許ノ聖山ニ新村ヲ立テメコトヲ決ス時ニ紀元前四百九十三年ナリ而シテ遂ニ其居ヲ遷シテ一旦羅馬ヲ分離セリ然ルニ商議久シキヲ經テ調停遂ニ成リ負債者ハ義務ヲ免レ且ツ奴隸モ亦皆チ放釋セラレタリ

●平民貴族トノ第二次分離ノ結果ハ如何ン……  
第一次分離ノ調停既ニナルヤ民長ノ官制ヲ置キ平民ノ一大歩武ヲ進メタレトモ又十大官ノ制アリ幾クモナク十大官甚クシク虐政ヲ施シ事能益々凶惡ニ陥リタルヲ以テ平民復分離シテ聖山ニ退キタリ然ルニ其結果ハ貴族ヨリ民權ノ第二大憲章ヲ得民長ノ官ヲ再置シ

且ツ部族會ノ權力ヲシテ國會ト平等ナラシメメコトヲ決シ紀元前四百四十六年二人ノ執政ヲ撰擧シ十大官ニ代ラシメタリ

●紀元前三百七十六年亂離ノ端ヲ開クニ當リシニアスストロー及ヒリュシアスセクステユアスト稱スル二人ノ民長カ百難ヲ排除センカ爲メ起草セル改革案ハ如何ナルモノナルヤ……  
改革按ニ曰ク方今政治スヘキ弊害、ニアリ一ハ政權ノ不平等、二ハ衣食ノ欠乏是ナリ今第一弊ヲ除カントセハ執政ノ官ヲ復シテ之レヲ政府ノ長官トシ且ツ毎年撰擧スル執政二人中ノ一人ハ必ラス之レヲ平民中ヨリ取ラサルベカラス又第二弊即チ平民ノ貧困ヲ醫セント欲セハ第一、負債ニ對シテ既ニ拂ヒタル利額ヲ元金ヨリ扣除シ其殘額ヲ三年賦ニ償却スルノ制ヲ設ケ第二、從來實際ニ於テ富人ノ專有タル公地ハ一人五百シユゲラム以上ヲ所有スルヲ許サス其殘餘ヲ平民中ニ小分シテ其私有トナスノ法ヲ立ツベシト此立按ノ結果ハ遂ニ羅馬政事ノ黃金時代ヲ顯ハスニ至レリ

●羅馬文字ノ起原ハ幾世紀ナリヤ……  
羅馬人ハ希臘ノ文學ヲ講究シタルノ刺激ヨリ自國ノ文學漸ク萌芽シ羅典文字ノ興起シタルハ其源ヲ紀元前第二世紀ニ發セリ是レ即チ今日ニ存スル所ノ文學ナリ蓋シ羅馬文字ノ盛時ハ此時ヨリ一百年後即チラーガスタスノ時代ニアリト雖モ當時既ニ卓越ノ著作者輩出シエンニアスハ羅馬詩祖ノ稱アリプロロダスハエソニアスト同時ノ人ニシテ詩才ニ富メリカト一ハ文章ノ泰斗トシテ著名ナリテレンスハ狂詩家中最モ著名ヲ博シタリ

●羅馬ノ四政黨トハ如何ナルモノナリヤ……  
 羅馬ニ四政黨アリ曰ク寡人政黨曰ク貴族政黨曰クマリクス黨曰ク軍人黨是ナリ其興起ハ  
 シルヲノ死后ニ在テ其寡人政黨ハ僅ニ數家族ヨリ成ルト雖其首長ハ元老院ヲ左右シ又  
 タ實ニ共和政事ヲ主宰セリ其貴族政黨ハ元老院議員ノ大數ヨリ成リ其同僚數人ノ爲メニ  
 寡奪セラレタル權力ヲ恢復セシムコトヲカムマリクス黨ハ嘗テシルヲノ爲メニ窘逐セラレ  
 タル家族ノ今再ヒ聯合シテ權力ヲ攫取セント欲スルモノヨリ成ル其軍人黨ハシルヲノ舊  
 將校ノ一群ニシテ嘗テシルヲニ從テ得タル財產ヲ蕩盡シタルヲ以テ今更ニ變亂ニ乘シ財  
 貨ヲ得ンコトヲ望ムモノトス

●マリクス黨ノ首領ハ何人ナルヤ……  
 マリクス黨ノ首領ニ二人アリ其一人チボンペート云ヒ他ノ一人チターアス、  
 シーザート云フシーザーハシセロヨリ少キコト六歳ニシテ少壯ノ時既ニ學藝ト放恣ヲ以  
 テ顯レ紀元前六十五年ニ於テ土木官ニ擧ケラレ其才幹人ニ趙越シ古來大豪傑ノ一人タリ  
 蓋シシーザーハマリクスノ姪ニシテ其身ハ貴族ノ舊家ヨリ出ルト云ヘトモ自己ノ目的ヲ  
 達セメカ爲メ遂ニ平民黨ニ左袒セルモノトス

●シーザーノ意見及ヒ性質ヲ示スベシ……  
 シーザーハ人ト爲リ強健ニシテ且ツ聰慧ナリ其ノザアブサスノ戰后羅馬ニ歸リ全國ノ主  
 タルヤ舊制度既ニ頹敗ニ屬シ復々恢復スベカラサルヲ察シ獨ニ惟ヘラク國ノ平和繁榮ヲ  
 招クハ一人ノ主權者アリテ確實公平ノ治ヲ爲スニアラザレハ能ハザルベシト乃チ法律ヲ  
 蹂躪シ以テ權力ヲ収メ而シテ此權力ヲ最良ノ目的ニ用ヒントセリ其演說中曾テ言ヘルコ  
 トアリ曰ク予ハシルヲ及ヒマリクスノ轍ニ倣フテ殺戮ヲ恣ニスルコトヲ欲セス單ニ之レ  
 ヲ回想スルモ余チシテ悚然タラシムルモノアリ余ノ敵既ニ今降伏セリ宜シク干戈ヲ抛チ  
 善徳ヲ施シ以テ猶ホ余チ怨ムモノチ心服セシメンコトヲ是レ務ムベシト

●シーザー暗殺ニ遇フノ實況并ニ第二ノ三雄同名トハ何人ノ組織セシモノカ又其結果ハ如何  
 ナリシヤ……  
 タイアス外四名ノ上將ハシーザーノ權勢ヲ惡ミ之レヲ誣テ王冠ヲ望ミ王号ヲ欲スルノ異  
 志アリト宣言シ紀元前四十四年三月十五日ヲ以テ之ヲ暗殺實行ノ期日ト定メタリ然ルニ  
 其謀圖民間ニ漏ル、ヤ人或ハシーザーヲ諫メテ元老院ニ出席セサラシメントス然ルニシ  
 ーザー之ヲ意ニ介セス既ニ其議院ノ席ニ着クマ黨中ノ議員其四邊ヲ圍繞シ其中ノ一人請  
 フ所アリト詐リ其兩腕ヲ緊壓ス續テカスカナルモノ劔ヲ拔キシーザーノ肩ヲ斫ラントス  
 ルヤ同時ニ黨與皆ナヒ首ヲ振テシーザーヲ擊ツ然レトモシーザーハ一モ之レニ抵抗セス  
 而シテ相集テ之レヲ亂刺シ廿三ヶ所ノ傷ヲ負ハシメ竟ニ其大競敵ボンペイノ肖像ノ下ニ  
 斃ルシーザーノ死スルヤアントニー及ヒチクダブリアス相和シテ騎兵總督レビダスト組  
 織シタルモノ則チ第二三雄同盟トス而シテ主權ヲ三分シテ各其一ヲ保ツノ策ヲ建ツ后チ  
 再ヒ三雄ノ爭鬪ヲ惹起シレビダスト遂ハレテ天下ハチクダブリアス及ヒアントニーノ手ニ

落チタリ后チ又アントニイ埃及ノ女王クレオパトラノ美ニ惑ヒ羅馬ノ領地チ之レニ與フ  
ルヤヲクダアイアス討罪ノ兵ヲ起シエシプトヲ討テアントニイ、クレオパトラノ二人チ  
殺シ悉ク其領地チ収ム紀元前二十七年元老院勸進シテヲীগスタスノ尊号ヲ奉ル蓋シ此  
号ハ至尊ト云フ意ナリ是ニ於テ共和政体一變シテ一帝國トナル

第四章 羅馬帝國

●羅馬帝政ノ性質ヲ概論スベシ……………

チীগスタスシザーハ三十六歳ニシテ全國ノ主宰トナルヤ當地公然立君政体ヲ建設セ  
ス反テ共和ノ舊態ヲ維持スルモノ、如シ然レトモ是レ只タ其外形ニ止ルノミ元老院モ猶  
ホ依然トシテ議會ヲ開クト雖トモ其實チীগスタスノ欲スル所ニ隨テ可否スルニ過キス  
又人民モ猶ホ其會議ヲ開キテ執政官及ヒ他ノ官吏ヲ擧スル雖モ是レ亦皇帝ノ推舉稱譽  
スル所ノ者ヲ擧クルニ過キス然レトモチীগスタスハ毫モ帝王ノ威儀ヲ裝ハス單々主權  
ノ實物ヲ有シテ自ラ足レリトシテ殆ント間斷ナク祭典遊戯ヲ執行シ或ハ穀物貨財ヲ  
賑恤シ以テ人民ノ思想ヲシテ政治ニ間スル邊ナカラシメタリ人民モ亦タ政治ノ範圍外ニ  
立ツチ喜ヒタリ是ニ於テ民心ノ腐敗モ亦タ甚ダシト云フベシ

●羅馬國民ノ權利及ヒ其消長ヲ記スベシ……………

羅馬帝國ハ原來伊太利ト諸島トヨリ成立チ而シテ此二者政治上ニ關シテ嘗テ相異ナル所  
アリ伊太利ノ都民ハ參政ノ權ヲ有シ諸島ノ住民ハ軍法ヲ以テ統御セラレタリ然ルニ從來

由テ以テ伊太利ノ平和ヲ保チタル善良ノ政法漸ク伊太利外ノ諸國ニ普及シ一ニハ羅馬都  
民ノ移住ヲ誘掖スルト一ニハ島民中ノ誠實ナル者ニ自由ヲ附與スルトノ二便宜アルヲ以  
テ羅馬都民同様に權利ヲ有スル國民次第ニ諸島内ニ増殖シ遂ニカラカルヲ帝ノ時即チ紀  
元前第三世紀ノ初年ニ於テ舊來ノ羅馬民ト諸島民トノ間ニ存セシ區別全ク廢セラレ當時  
羅馬民ニ附與セシ特權ヲ以テ之レヲ帝國ノ總自由民ニ附與セリ

●コンスタンティン帝ノ基督教ヲ奉シタル所以ヲ説クベシ……………

コンスタンティン帝ハコンスタンティンアス、クロラスノ子ニシテ曾テ其強族ノ一人マ  
キセンライアスヲ撃タント欲シ羅馬ノ近傍ヲ進軍スルノ際十字形燦爛トシテ大陽ノ上ニ  
現ハレ其面ニ此レニ依テ征服スベシトノ文字ノ刻記セルヲ親視シタリ而シテ遂ニマキセ  
ンテイアス戰テ大ニ勝チ得タリ此レ此帝ヲシテ斷然基督教信徒ヲシメタルユエンナリ

●羅馬ノ衰運ハ其レ何レノ時ナルヤ……………

羅馬ノ衰運ハ羅馬人民ノ既ニ一國民トシテ存立スルノ勢力ヲ失ヒ却テ全帝國ノ爲メニ併  
呑セラレシカ如キハ最モ著大ナル事實トス羅馬人種ハ初メ世界ヲ征服セシカ后竟ニ其制  
服シタル世界即チ其領ノ制スル處トナル奢侈益々增長シ德義地ニ墜チ殊ニ五百年間甘シ  
テ抑壓帝政ノ下ニ立チシカ如キハ其己ニ自由ニ適セサルヲ示スモノナリ

第四篇 中古史

第一章 新人種



●**歐羅巴**ハ全部アリアン種族ノ占有スル所ナルヤ否ヤ……  
 歐羅巴ハ主トシテアリアン族ノ占有スル所ナリト雖モ其全部悉ク然ルニアラス他ノ諸種族ノ集合シテ沃地及ヒ礦山ヲ占有セリ又最后ニ至リマグラヤ人ニシテ是レ即チ蒙古韃靼種族ナリ此類族ハタニユーラ河邊ノ地ニ下テ竟ニ之ニ駐リ紀元一千年頃ニ至リ基督教ヲ信奉シ文明開化ノ民トナリ更ニ進ンテ高尚ナルパンガリ國民ノ形体ヲナセリ又土耳其人モ蒙古韃靼種族ニシテコンスタンチノーブルヲ奪略シバイザンティウム帝國ヲ覆滅シ遂ニ脚ヲ歐羅巴ニ立チ以テ今日ニ至レリ

第二章 三百年間ノ史

●**佛國**興起ノ原由ヲ記セヨ……  
 西羅馬帝國騷亂ノ時ニ當リチユートンノ諸族國チゴールニ建ツ其中ニヴァイシゴス人、パノカーテイアン人及ヒフランク人ノ諸種族アリフランク人其酋長クロドローイグノ時ニ當リ他族ヲ凌駕シクロブイスノ五百七年ヲ以テ首府ヲ巴里即チルーテシアニ定メタリ之レ佛國建立ノ時ニシテ則チ之ヲ其興起ノ原因トス

●**英國**興起ノ原由ヲ語ルベシ……  
 日耳曼種族ノ英蘭ニ移住スルコト第五世紀ノ中葉ヨリ第六世紀ノ末葉ニ至ルマテ陸續トシテ絶ヘス故ニクリスト教一旦地ヲ拂ヒシモアングロ人及ヒサクソン人ハ次世紀中羅馬ヨリ來レル宣教師ノ風化ニ由リクリスト教ノ信者トナル當時全賦分裂シテ戰爭常ニ止マ

ス然ルニ第九世紀ノ初メニ當リエクベルド王數小國ヲ併セテ英蘭ヲ一統ス之レヲ英吉利興起ノ原由トス

●**ブリトン**ニ侵入セシ下日耳曼ノ諸種族中重モナルモノチ三種族トス其稱名ヲ擧ケヨ……  
 下日耳曼ノ侵入者中重モナルモノハアングル人、サクソン人及ヒシユート人ノ三種族トス就中シユートノ名ハ現時ノ英吉利人ノサクソン種族ニ屬スルコトハ世人ノ數々談スル所ニシテ又種々ノ日耳曼方言ノ相混合シテナレルブリトン島ノ言語ノ如キモアングロサクソン語ノ名稱ヲ得且ツブリトンモ遂ニ其名ヲ變シテ英蘭即チアングル人ノ地ト稱スルニ至レリ

●**摩保滅土**早年ノコトヲ記スベシ……  
 マホメット即チモハマドハアラビヤノ聖府メッカニ生ル是レ五百七十年ノ事ナリ其年四十二ニ至ル迄ハ嘗テ世人ノ耳目ヲ驚カシタルコトナク只タ其家ノ富豪且ツ正直信義ヲ重シスルヲ以テ人ノ知ル所トナルノミ書ヲ讀ミ字ヲ寫スコト能ハスト雖トモアフリカ半島ク諸部及ヒシリア、パレチオンニ旅行シテ貿易ニ從事セシヲ以テ大ニ其智識ヲ擴メタリ后チ遂ニ一派ノ宗教ヲ創造ス一日親戚故舊ノ集會ニ於テ突然宣言シテ曰ク上帝余ニ任命スルニアフリカ全民ノ宗教及ヒ習慣ヲ改良センコトヲ以テセリト又説テ曰ク猶太クリストノ兩教共ニ上帝ノ宣言ニ出ツルト言ヘトモ余カ上帝ヨリ受ケシ教義ハ一層完全ナリト乃チ其朋友及ヒ親戚ヲシテ皆ナレノ權威ヲ奉戴センメ且ツ其偶像ヲ放棄シテ只タ一ノ

眞神ヲ禮拜セシメタリ

●加里不政略ノ顛末ヲ略記セヨ……  
 マホメットノ死后「カリフ」ト稱スル主治者之ニ續ク「カリフ」トハ繼嗣者ノ義ナリ初メノ「カリフ」ハマホメットノ義父アビユールベカートス爾后「カリフ」ハ政教ノ兩權ヲ掌握シマホメットノ遺志ヲ繼キ頻リニ侵畧征服ヲ事トシマホメットノ宗教ヲシテ亞細亞及ヒ亞非利加ノ大部ヲシテ悉ク之ヲ尊奉セシメ次テ又歐羅巴ニ進入シコンスタンテイノープルヲ圍ムコト八年然レトモ遂ニ退ケラル之ヨリ后益々威ヲ逞セシト西班牙ニ上陸シアイシゴス國王ロドリックハセレスノ野ニ敗ラルカラセソ人固ク西班牙ニ據リ數年間ニシテ此半島ノ全部ヲ押領セリサラセン人尙ホ未タ飽カス南部ゴールノ一地ニ據ルヤ歐羅巴全土モスレムノ武威ニ風靡セラレントスルノ觀アリシ然ルニ佛蘭西ノ查爾斯摩特大ニ兵ヲ集メテサラセン人トトウル及ヒポトローイーノ間ニ會シ劇戰七日ニ及ヒ遂ニ之レヲ破ル時ニ七百三十二年ナリ是ニ於テサラセン人又深ク歐羅巴ヲ侵畧スル能ハスト云ヘトモ固ク西班牙ノ地ニ據テ一王國ヲ建テ其繼續スルコト七百年ニシテ中代ノ末葉ニ至ル

第三章 封建制度

●封建制度ノ起原ヲ示スベシ……  
 初メ日耳曼ノ自由人民中酋長ヲ援ケテ敵國ヲ征服シタルモノハ特ニ采地ヲ受ケ之ヲ世襲産ト稱シテ各自ノ私有物トセリ而シテ酋長則チ君主モ亦勿論別ニ廣大ナル土地ヲ以テ己ノ所有トセリ然ルニ其後君主己ノ領地ヲ以テ之レヲ其隸屬寵臣ニ割與シ之ヲシテ忠ヲ盡シ且ツ軍役ニ服センコトヲ誓ハシムルコト常習トナルニ至レリ此ノ割與セル地ヲ食邑即チヒウーダム或ハヒーフト稱シ此法ヲ以テ土地ヲ領スルヲ守産法ト云フ此守産即チ食邑ハ全ク世襲産ト異レリ世襲産ハ各自ノ私有物ナレトモ守産法ニテ領スルモノハ所有主ノ允許アル間之レヲ保ツテ得ルノミ之レヲ封建制度ノ起原ナリトス

●封建制度普及ノ一斑ヲ述ベヨ……  
 此土地所有ノ制幾クモナクシテ上下ニ行ハレ次第ニ聯屬ノ關係ヲ爲スニ至リ大貴族ハ國王ノ贈與ヲ受クルヲ甘ンシテ其臣屬トナリ又タ小地主モ往々自ヲ好ンテ其私有地ヲ近傍ノ大地主ニ獻シ更ニ之ヲ食邑トシテ受領シ以テ大地主ノ保護ヲ受ケンコトヲ願フニ至レリ是ヲ以テ漸次一國ノ体面食邑聯貫ノ狀ヲ爲シ上ハ君主ヨリ下ハ貧困ノ自由民ニ至ルヤテ各自階級ニ從ヒ其食邑ヲ領セリ而シテ古來ノ著作家ハ封建制度ヲ記シテ頗ル之ヲ潤色スルモノ少カラス然レトモ其裝飾ヲ剝ケハ此制度ノ不良ナルコト疑フベキニアラスシテ六ニ世ノ進歩ヲ妨ケ人民ノ自由ヲ害セリ何トナレハ此制度タル人ヲシテ他人ノ意思ニ從ハシムルモノナレハナリ

第四章 十字軍

●第十一世紀ニ於テ十字軍ノ議歐務ニ起ル此戰爭ヤ第十二世紀及ヒ第十三世紀ノ全部ニ亘ル二百年間ニシテ史上ノ一大事件ナリトス其原因如何ン……

眞神ヲ禮拜セシメタリ

●加里不略ノ顛末ヲ略記セヨ……

マホメットノ死后「カリフ」ト稱スル統治者之ニ續ク「カリフ」トハ繼嗣者ノ義ナリ初メノ「カリフ」ハマホメットノ義父アビユールベカートス爾后「カリフ」ハ政教ノ兩權ヲ掌握シマホメットノ遺志ヲ繼キ頻リニ侵畧征服ヲ事トシマホメットノ宗教ヲシテ亞細亞及ヒ亞非利加ノ大部ヲシテ悉ク之ヲ尊奉セシメ次テ又歐羅巴ニ進入シコンスタンテイノールヲ圍ムコト八年然レトモ遂ニ退ケラル之ヨリ后益々威ヲ逞セゾト西班牙ニ上陸シアイシゴメ國王ロドリックハセレスノ野ニ敗ラルカラセソ人固ク西班牙ニ據リ數年間ニシテ此半島ノ全部ヲ押領セリサラセン人尙ホ未タ飽カス南部ゴールノ一地ニ據ルヤ歐羅巴全土モスレムノ武威ニ風靡セラレントスルノ觀アリシ然ルニ佛蘭西ノ查爾斯摩特大ニ兵ヲ集メテサラセン人トトウル及ヒポトローイーノ間ニ會シ劇戰七日ニ及ヒ遂ニ之レヲ破ル時ニ七百三十二年ナリ是ニ於テサラセン人又深ク歐羅巴ヲ侵畧スル能ハスト云ヘトモ固ク西班牙ノ地ニ據テ一王國ヲ建テ其繼續スルコト七百年ニシテ中代ノ末葉ニ至ル

第三章 封建制度

●封建制度ノ起原ヲ示スベシ……

初メ日耳曼ノ自由人民中酋長ヲ援ケテ敵國ヲ征服シタルモノハ特ニ采地ヲ受ケ之ヲ世襲産ト稱シテ各自ノ私有物トセリ而シテ酋長則チ君主モ亦勿論別ニ廣大ナル土地ヲ以テ己ノ所有トセリ然ルニ其後君主己ノ領地ヲ以テ之レヲ其隸屬寵臣ニ割與シ之ヲシテ忠ヲ盡シ且ツ軍役ニ服センコトヲ誓ハシムルコト常習トナルニ至レリ此ノ割與セル地ヲ食邑即チヒウーダム或ハヒーフト稱シ此法ヲ以テ土地ヲ領スルヲ守産法ト云フ此守産即チ食邑ハ全ク世襲産ト異レリ世襲産ハ各自ノ私有物ナレトモ守産法ニテ領スルモノハ所有主ノ允許アル間之レヲ保ツテ得ルノミ之レヲ封建制度ノ起原ナリトス

●封建制度普及ノ一斑ヲ述ベヨ……

此土地所有ノ制幾クモナクシテ上下ニ行ハレ次第ニ聯屬ノ關係ヲ爲スニ至リ大貴族ハ國王ノ贈與ヲ受クルヲ甘ンシテ其臣屬トナリ又タ小地主モ往々自ラ好ンテ其私有地ヲ近傍ノ大地主ニ獻シ更ニ之ヲ食邑トシテ受領シ以テ大地主ノ保護ヲ受ケンコトヲ願フニ至レリ是ヲ以テ漸次一國ノ体面食邑聯貫ノ狀ヲ爲シ上ハ君主ヨリ下ハ貧困ノ自由民ニ至ルヤテ各自階級ニ從ヒ其食邑ヲ領セリ而シテ古來ノ著作家ハ封建制度ヲ記シテ頗ル之ヲ潤色スルモノ少カラス然レトモ其裝飾ヲ剝ゲハ此制度ノ不良ナルコト疑フベキニアラスシテ大ニ世ノ進歩ヲ妨ケ人民ノ自由ヲ害セリ何トナレバ此制度タル人ヲシテ他人ノ意思ニ從ハシムルモノナレバナリ

第四章 十字軍

●第十一世紀ニ於テ十字軍ノ議歐勃ニ起ル此戰爭ヤ第十二世紀及ヒ第十三世紀ノ全部ニ亘ル二百年間ニシテ史上ノ一大事件ナリトス其原因如何ン……

クリスト教徒ハハレズタインノ靈地ニ詣ルノ風習アリテカレセン人ノ之ヲ管理スル時ニ當テハ其參詣者ノ爲メニ利益ヲ得ル鮮少ナラス然ルニ第十一世紀ノ中葉ニ至リ土耳其人小亞細亞及ヒ西利亞ヲ管領スルニ及ソテクリスト教信徒ハ其住民タルトテ問ハス最モ殘酷ノ待遇ヲ受ケ摩滅土教徒ノ爲メニ或ハ嘲ラレ或ハ唾セラレ其遁レテ歐羅巴ニ歸ルモノ殆ソト虚日ナシ然ルニ佛國ノ僧ピーター、ハーミットナルモノ之レヲ見テ歐病ニ歸リ法皇ウルバン二世ニ説クニ靈地回復ノ事ヲ以テス二世遂ニ千九十五年クレモン教會々議ヲ開キ自ラ衆ニ演説ス衆感激セサルナク直チニ出征ノ期ヲ定ム是レヲ十字軍ノ原因ナリトス

●十字軍ノ將師ハ何人ナルヤ又タ其出師ヲ何ノ方向ニ取リシヤ……………法王ノ撰定セシ十字軍進發ノ期日ハ一千九十六年八月十五日ナリ然ルニ衆民ノ感動非常ニシテ其期ヲ俟ツ能ハス新年ニ入ルヤ男女老幼四方ヨリ佛國ノ東境ニ集リピーター、ハーミットヲ圍繞シ聖擧ノ首唱タルヲ以テ其將師タランコトヲ求ムピーター亦タ己レノ其大任ニ堪ヘサルヲ察セス輕シク之レヲ許諾シタリ是ニ於テ其結合セル大軍ハ直ニ其指揮ヲ奉シテ日耳曼ヲ過キ漸ク東方ニ進ミタリ是レ十字軍ノ先鋒ナリ

●千九十七年ノ十字軍ハ如何ナル戰況ヲ顯シタルヤ……………ピーター、ハーミットノ敗后千九十七年ニ至リ佛蘭西及ヒ伊太利ノ侯伯騎士相謀テ征軍ヲ發ス兵凡ソ五十万人小亞細亞ノナイス府ヲ陥レ遂ニ土耳其ノ大軍ヲ破ル土耳其人野ヲ濶メ十字軍ヲシテ糧食ヲ求ムル能ハサラシム是ニ因テ兵士飢エテ死スルモノ多シ然レトモ尙ホ勇ヲ鼓シセルサレム府ヲ圍ムコト五旬ニシテ遂ニ之レヲ拔キ回々教七万人ヲ殺シ其宿憤ヲ散シ諸將セルサレムヲクリスト教王國トナントローレン公ゴッドフレエテ以テ其王トナカントスゴッドフレエ之ヲ固辭シ單ニ此靈地保護者トナリタリ

●第二十十字軍ノ顛末ヲ略記セヨ……………東洋ノクリスト教王國ハ四周ノ回々教徒ノ攻撃ニ對シ善ク其命脈ヲ保ツコト五十年間ナリシカ終ニ一千百四十五年ニ至リ土耳其國州令ノ一人エデツサクリスト教ノ領地ヲ奪略シ且ツクリスト教徒ヲ殺戮ス聖バーナードナルモノ新ニ十字軍ヲ起サザルハカラサルエエンチ説キ且ツ雄辨ヲ以テ當時ノ二大國君即ハチ日耳曼帝コンラツト三世及ヒ佛蘭西帝ルイ第七世ヲ第二十十字軍ニ與ミセシメタリ而シテ其精兵三十万ヲ以テ第一十字軍ノ進路ヲ踐ミコンスタノチノープルニ進ミ遂ニ戰端ヲ開キシモ十字軍利アラソテ日耳曼人ノ其異教者ノタメニ屠殺セラレタルモノ十分ノ九ニ及ヒタリ然ルニ佛蘭西人日耳曼ノ殘兵ト合シテ小亞細亞ヲ通過シララテイシアニ於テ苦戰シ又タ遂ニセルサレム府ニ達シ是ニ於テ纒ニダマスカステ圍ムヤ又タ敗レ次テ軍兵其目的ヲ達セスシテ本國ニ歸リタリ故ニ第二十十字軍ノ結局ハ茫トシテ記スベキモノナシ

●第三十字軍ノ顛末ヲ略記セヨ……………第二十十字軍敗績ノ后チ四十年ノ后チガルドノ酋長サラテイント稱スルモノ回々教諸國チ

合セテ之レヲ統一スルヤハレスタインニ侵入シ終ニセルサレム府ヲ圍ミ十四日ニシテ之レヲ降ス時ニ一千八百八十七年ナリ而シテ其凶報歐羅巴ニ達スルヤ忽チ第三十字軍ヲ起シ西部ノ三大國王即チイギリス王リチャード第一世フランス王フィリップノガスタス及ヒ日耳曼帝フレデリック赤髯モ亦タ起テ十字架ヲ執リ英佛諸國王ハ海路ヨリフレデリック王ハシリシアノ小流ニ浴スルニ際シ溺レテ死ス而シテ英佛兩國王ハ進ノテチアーストリア王侯レヲホルトノ兵ヲ合シテ遂ニアツカー府ヲ拔キシカレナホルドハ力査王ニ辱メラレテ國ニ歸リ佛王モ亦十字軍ヲ脱シタリ蓋シフィリップ王カ英王リチャードノ輕佻驕傲ナルヲ惡ムニアリト信スト雖モ又此レリチャードノ名聲盛ニシテ己ノ上ニ出ツルヲ妬ミタルモノ、如シ此ニ於テ英王リチャードハ尙ホ留テ敵ト交戦シ數々勝利ヲ得タリト雖トモ遂ニサラデイント休戦ヲ約シ軍ヲ撤シテ歸ル

●第四以下ノ十字軍ハ幾回ニシテ其終ヲ告ケタルヤ且ツ其ノ毎回ノ事情ヲ略記スベシ……第四以下ノ十字軍ハ延テ第八回ニ至リテ其終ヲ告ケタリト雖トモ然レトモ終ニ大好結果ヲ生スルニ至ラスシテ止ミタリ今之レヲ略記センニ第四十字軍ノ將師タル宗教上ノ熱情ヨリ師ヲ起シタルニアラス寧ロ功名心ノ爲メニセルモノニシテ初メタルメシアノクリスト教府セラフ眼シテアエニス國ノ命ニ從ハシメントシテアエニス艦隊ノ幫助ヲ請ヘリ遂ニユノスタンテイノノブルニ進行シ東帝國ヲ滅シラテン王國ヲ建タリ第五十字軍ハ其戰場ハ埃及ニシテ終ニ敗失シ埃及王ニ降リ后チセルマン帝フレデリック二世之レヲ續キ

埃及王ニ迫リセルサレム府其他チクリスト教徒ニ讓ラシメタルモ后チ又々之ヲ奪ハル第六十字軍ハ一千二百三十八年チアール王ノ下ニ屬セル佛蘭西人等ノ唱道ニ係ルモノニシテ遂ニ開戦ニ至ラスシテ約ヲ結ンテ其事ヲ了ル第七十字軍ハ土耳其人、ラテン王國ニ侵入シ之ヲ顛覆シバレスタイノ大半ヲ占領スルニ及ンテ佛王ルイ第九世慨然トシテ一千二百四十九年ヲ以テ起シタルモノトス然ルニ王ハ敵ノタメニ擒ニセラレ夥多ノ贖金ヲ出シテ王及ヒ其兵ヲ救フニ至レリ第八十字軍ハ一千二百七十年ルイ王ノ起ス所ナリ此役ヤ又全ク効果ヲ奏セスシテ止ム王ノテユニス府ヲ圍ムヤ疫病軍中ニ發シルイ王モ亦死セリ此役ヤ英國ノ太子エドワードモルトカフ令セバレスタイニ進軍シタリト云ヘトモ僅カニ小戦ヲ試ムルノ后チ本國ニ歸ル其后規モナククリスト信者ノ最后ノ一城エクアモ亦タ掠取セラレ靈地全クマホメット教徒ノ手ニ落チタリ

●十字軍ハ如何ナル結果ヲ顯ハシタルヤ……十字軍ハ全ク其直接ノ目的ヲ達スルコト能ハス然レトモ此數回ノ大遠征タル他ニ重大ナル好結果ヲ生シタリ近代ノ商業始メテ發達セシモ實ニ此遠征ノ間ニアリ蓋シ十字軍人ヲ運送シ糧食并ニ戰具ヲ輸送シ地中海ノ商賣及ヒ渡航速ニ増加シ東洋ノ驕奢風ヲ輸入シイタリ諸國ノ人民地中海ノ東岸並ニギリクス帝國ノ海濱ニ商品蓄藏所ヲ設クルニ至リタリ其他十字軍ハ封建貴族政治ノ勢力ヲ減殺シ其他智力上ニ及ホセル影響勝テ數フベカラ

第五章 中古ノ文明

● 暗黒時代トハ幾世紀ノ頃ヲ指スマヤ又何故之レヲ暗黒時代ト云フヤ……  
 中代ト稱スルハ第五世紀ノ末葉ヨリ第十五世紀ノ末葉ニ至ル又々第五世紀ノ末葉ヨリ第  
 十一世紀ノ末葉ニ至ル六百年間ヲ以テ之レヲ暗黒時ト云フ而シテ此ノ如ク稱スルユエン  
 ノモノハ此六百年間ハ記スベキ事蹟ナキヲ以テナリ

● 伊太利ノ都府其盛大ヲ致セシハ幾世紀ナリヤ……  
 イタリイニ於テハ都府ノ盛大ヲ致セシコト日耳曼ヨリモ更ニ夙ク殊ニ北部伊太利即チロ  
 ヲハローミーニ於テ最モ盛ニシテ市府其勢力ヲ增長シ百事ノ中心トナリシハ其源ヲ第十一  
 世紀ニ起シタリ而シテ其名ハ日耳曼帝ノ管治ヲ受ルト雖モ帝權漸ク傾廢スルニ拘ハラズ  
 日二月ニ益々強大ヲ致シ所謂ルロンバード同盟ナルモノ、成立セシハ一千百六十七年ニ  
 シテ又コンタンスノ和約ヲ以テ諸府ノ獨立確定セシハ一千百八十三年ニアリトス夫ノブ  
 エコス、セノア等ノ如キ大都府ノ共和政治モ實ニ其起初ハ此時ニアリトス

● 英吉利國ノ一大産物ト且ツ其商業ノ重ンセラル、ニ至リシハ幾世紀ナルヤヲ示スベシ……  
 英吉利國ノ一大産物ハ羊毛ニシテ殆ント其輸出ノミノ商賈ニ從事セシハノルマン人ノ征  
 畧后二百年間即チ第十一世紀ノ中葉ヨリ第十三世紀ノ中葉ニ至ル然レトモ第十四世紀ニ  
 至リ英吉利商賈ノ父祖タルエドワード第三世數多ノ職工ヲフゾターヨリ招キ一層美  
 麗ナル毛布製造ヲ創始スルヤ其世紀ノ中葉ヨリ國ノ富財駭々然トシテ増加スルノ証徴ヲ

現ハシ英國史ニ於テ商業ノ重ンセラル、ニ至リシハ實ニ源ヲ此時ニ起シタリトス

第六章 政治史要

● 日耳曼ヲシテ歐羅巴ノ最大國タラシメタルハ何人ナルヤ……  
 セルマン王ヘンリー第一世ハサクソン帝統ノ祖ニシテ子孫セルマンニ君臨スルコト五世  
 一百有餘年ニ及ヒタリ故ニ此國ヲシテ歐羅巴ノ最大國タラシメタルハヘンリー第一世其  
 人ナリトス蓋シ第一世ハコンラツド王ノ死スルニ當テサクソン人及ヒフランユニア人ノ  
 爲メニ擧ケラレテ王トナリタルモノナリ

● 佛國歐務中ノ一大國トナリシユエンヲ畧記スベシ……  
 フィリツプ第二世(フィリツプ、チーガスタス)イギリス、シヨンヨリノルマンデイ、メ  
 イン及ヒ其他北部フランスノ領地ヲ奪取スルヤフランスノ勢力大ニ加ハリ且ツルイ第九  
 世(聖路易)明政ヲ以テ其重大ヲ致セリ實ニ佛蘭西ノ一大國タルハ是ヨリ始マルモノニシ  
 テ爾后歐務ノ大國中ニ算入セラル

● ノルマン人英吉利征服ノ結果如何シ……  
 ノルマン人ハ勝王ウイリアムヲ將トシイギリスニ進入シ遂ニ之レヲ平定スルヤ爾后ノル  
 マン人陸續渡來シ獨リイギリス國ノ政權ヲ掌握シ政府ノ高官ハ皆ナ之レヲノルマン人ノ  
 手ニ占メ又々教會及ヒ法庭モ其指揮スル所トナリ且ツ公用文書ニハノルマン、フランス  
 語ヲ用フルニ至レリノルマン語ハ羅馬種語ニシテ源ヲラテン語ヨリ發ス

●ノルマン家ノ諸王并ニフランタ子ツト家ノ諸王ヲ列舉セヨ……

ノルマン家ノ諸王

ウイリアム第一世 一千六十六年ヨリ一千八十七年ニ至ル

ウイリアム第二世 一千八十七年ヨリ一千百年ニ至ル

ヘンリー第一世 一千百年ヨリ一千百三十五年ニ至ル

ステフエン 一千百三十五年ヨリ一千百五十四年ニ至ル

ウイリアム第二世ハ勝王ウイリアムノ第二子ニシテヘンリー第一世ハ其末子ナリステフ

エンハ勝王ウイリアムノ第四女アデルラ、プロイス伯ニ嫁シテ舉グル所ノ子ナリ

フランタ子ツト家ノ諸王

ヘンリー第二世 千五百五十四年ヨリ千八百八十九年ニ至ル

リチアード第一世 千八百八十九年ヨリ千九百九十九年ニ至ル

ジョン 千九百九十九年ヨリ千二百十六年ニ至ル

ヘンリー第三世 千二百十六年ヨリ千二百七十二年ニ至ル

エドワード第一世 千二百七十二年ヨリ千三百七十七年ニ至ル

エドワード第二世 千三百七十七年ヨリ千三百九十九年ニ至ル

エドワード第三世 千三百九十九年ヨリ千三百七十七年ニ至ル

リチアード第二世 千三百七十七年ヨリ千三百九十九年ニ至ル

ヘンリー第二世ハヘンリー、第一世ノ女マティルダ、シエヌフレ、フランタ子ツトニ嫁シテ之ヲ生ム之レヲフランタ子ツト王ノ祖トス

●一千四百五十五年イギリスニ起リタル一大内亂アリ是レ果シテ何等ニ原因スルヤ其一斑ヲ示スベシ……

此一大内亂タル蘭加斯特家トヨーク家ノ王位ヲ争フタルモノニシテ世ニ之レヲ稱シテ薔薇軍トス即チ紅薔薇蘭加斯特家ノ徽章トシ白薔薇ヲヨーク家ノ徽章トナシ交戦スルコト六年ニシテ竟ニヨーク家勝テ得テ王位ヲ占メタリ則チホドウアード第四世(一千四百六十年ヨリ一千四百八十三年ニ至ル)エドワード第五世(一千四百八十三年ヨリ一千四百八十五年ニ至ル)是ナリ此三王ノ治世合シテ二十四年其間讒謀、葛藤、踵ヲ接シテ以テ一千四百八十五年ニ及ビエドワード、チウードノ子ランカストル伯王位ニ即ク之ヲヘンリー第七世ト稱スチウード王統之ヲ以テ始マル英吉利ノ中代史此ニ至リテ終テ告ク

●伊太利ノ國情ヲ略説スベシ……

シアーンメン大帝國ハ八百四十二年アエルダンノ條約ヲ以テ分裂シ其伊太利ノ領地ハシアレメンノ孫ロゼイアノ手ニ歸ス而シテ日耳曼帝チツドノ時ニ至リ聖羅馬帝國ノ境域内ニ入りタリト雖モ未ダ安寧ヲ得ルコト能ハズ是レ日耳曼帝ト法王トノ爭論嘗テ其ノ跡ヲ絶タス伊太利ヲ舉ゲルフ及ヒギベリン兩黨ノ爭鬪ニ陷ラシメタレハナリギベリン黨ハ皇帝ニ黨シケルフ黨ハ伊太利人民ニ與ミシ常ニ日耳曼帝國ノ羈腕ヲ破ラント務ムル處

ロノモノニシテ世々ノ法王ハ概子之レニ黨セリ

●西班牙ノ諸王國ヲ合セテ西班牙王國ヲ建立セシハ何人ナルヤ且ツ其ムシルヲ奪略スルニ際シテ起リシ一事件ハ何ソヤ………

プアーシナンドノイサベラト結婚スルヤ終ニカスダイル及ヒアゴソノ二國ヲ合併シ茲ニ西班牙王國ヲ建立セリ又一千四百九十一年回々教徒ノ最后ノ領地グラナダヲムール人ヨリ奪取セリ其ムール人ヲ征スルヤ師團ノ進退ト共ニ行在所ヲ移シ別ニ朝廷ヲ設ケス當時コロンブス大事ヲ企テ補助ヲ西班牙王夫妻ニ請フヲ以テ又共ニ其居ヲ戰地ニ移セリ而シテイサベラトコロンブストノ間ニ契約ノ成リシハ實ニムール人ノ最后ノ堅城没落ノ后三日ニシテグラナダノ平原ニ於テ之レヲ結ベリ亦タ奇ナリト云フベシ

第五編 近代史 第十六世紀ノ初

第一章 中古ヨリ近代ヘノ移遷

●中古ノ終ハ何ノ時ニアルヤ………古來數多ノ歴史家カ中代ノ終リナリトセル時日ノ各々相異ナルヲ以テモ亦之レヲ定ムルノ困難ナルヲ見ルニ足ルベシ或ハコンスクンテイノイノブル土耳其人ノ爲メニ掠奪セラレ東羅馬帝國終ヲ告ケタル時ヲ以テ中代ノ終リトナスモノアリ或ハアメリカノ發見ヲ以テ中代ノ終リトナスモノアリ或ハ第十五世ノ終リヲ以テ中代ノ終リトナスモノアリ然レトモ是レ全ク任意ニ出テタルノミ故ニ其何ノ時ニアルカハ精密ニ之レヲ確定スルコト難シトス

第二章 第十六世紀ノ大事件

●チャールズ第五世ノ地位ヲ記スベシ………チャールズ第五世ハ千五百年ヲ以テケントニ生ル父ハ埃地利ノ大公フィリップニシテ母ハシチアアンナナリ十五歳ニシテフランダールノ政權ヲ握ル是レ其父家ノ祖母バーギーデイーノマリーノ姻戚ニ由ルナリ其翌一千五百十六年外祖父フアードナント王死スルヲ以テ其頭ニ西班牙國ノ寶冠ヲ戴キドン、カロース第一世ト號シ其母ミアナト共ニ君臨ス但シ當時ミアナハ狂疾アリシト云フ此時ニ當リ西班牙國ノ版圖ハ獨々西班牙ノミナラスチーブルスシ、リサルテイニア及ヒ嘗テゼノアノ航海者ノ英才ニ依テ西班牙ニ屬セシアメリカノ大領地ヲモ包有セリ后千三年ヲ經テ一千五百十九年ニ至リ父家ノ祖父マキシミリアン帝死スルニ及ンデ埃地利ノ主權并ニ其他ハブスバーク家世襲ノ領地ハ皆ナカレロス第一世ノ有ニ歸シタリ

●セルマン帝チャールズ第五世ノ新教徒ト交戦ノ結果ハ如何ン………チャールズ第五世ハフランシス第一世等ノ死ニ際シ新教徒ノ侯伯ト交戦セリ是ヨリ先キ新教徒ハ會盟シテ交々擁護スヘキ約ヲナスヤ舊教徒モ亦總會ヲ開キタリ此ニ於テ戰爭忽チ起リ新教徒ノ一人サクソニーノマウリス同盟ヲ脱シテ帝ニ與ミスルヤ新教徒忽チ瓦解ス則チ帝大ニ氣力ヲ得テ放肆又タ甚タシキヲ以テ新教徒ノミナラス舊教徒モ亦憤怒シマ



ウリス又新教徒ト聯合シ帝ニ迫テ宗教ノ自由ヲ確定スベキ大策ヲ講シ佛王ヘンリー第二世ト同盟シ一千五百五十二年帝ニ對シテ宣戰セリ遂ニ日耳曼ニ於テ失敗シ全年パツソールニ條約ヲ結ヒ新教徒ヲシテ宗教ノ自由ヲ得セシメサルヲ得サルニ至リ后チ三年ヲ經テ一千五百五十五年ヲ以テアウグスバーグノ議會ニ於テ公然新舊ノ兩教互ニ相容赦スベキコトヲ可決ス是ニ於テ宗教改革主義初メテ日耳曼ニ於テ政事上ノ勝利ヲ得タリ

ウイリアムノ横死ヨリランダ共和國ノ確定ニ至ルマテノ事蹟ヲ記スベシ……  
 ウイリアムノ大統領タリシ以前ヨリフイリツフ第二世ハ賞ヲ懸ケテウイリアムノ頭ヲ購フ遂ニ刺客ノ匕首ニ由テランダ共和國ハ此愛國有爲ノ首領ヲ奪去ラル是ニ於テ其子モトリス代テ大統領ニ撰舉セラレ父ノ遺志ヲ繼キ頻リニ戰功ヲ立ツ英女王エリサベス亦タ帥ヲ出シテ之ヲ援クナランダノ軍大ニ振フ此ニ於テ西班牙ハ止ヲ得ス十年間ノ休戰ノ約シ千六百四十八年ウエストリアノ和議ニ於テ西班牙ハ其獨立ヲ承認シ三十七年間ノ戰爭全ク其ノ跡ヲ收メランダ國ハ初メテ共和政治ヲ確立シランダ共和國ヲ起シタリ此國ハ是レヨリ盛ンニ各國ト貿易ヲ開キ日二月ニ旺盛ヲ極メ其首府アムステルダムハ一時商業世界ノ中心トナリタリ

パースチロミユウ殺戮ノ一斑ヲ設クベシ……  
 一千五百七十二年八月廿四日即チ「セントバースチロミユウ」ノ祭日味爽警鐘鐺然トシテ響クヤ「カザリン」黨ノ人々ハ各々左臂ニ巾章ヲ着ケ帽ニハ白色ノ十字形ヲ附ケ以テ徽號

トナシタリ「ヒュートゲノット」黨ハ警鐘ノ鐺然タルヲ聞キ且ツ同胞ノ叫喚ニ驚キ或ハ衣服ヲ着クルノ暇ナク僅ニ半身ヲ掩ヒ戶外ニ出ツルヤ輒チ「カザリン」黨ノタメニ或ハ殺戮セラレ全都忽チ鮮血ヲ流シ死尸積ンテ山ヲナセリコリンエハ先ツ殺サレナヴァール王ヘンリーハ「加特力」教會ニ行クヲ約シテ僅ニ一命ヲ免レタリ此慘酷ナル殺戮三日ニ亘リ巴里ノ市街寂トシテ人聲ナク又タ屠ルヘキモノナキニ至レリ府中ニ於テ此慘毒ノ犠牲トナルモノ一万ニ下ラス又諸劾ニ於テ殺戮セラル、モノ四万五千人ニ及ベリ是レチヤイレソノ新教徒ヲ惡ミ爲メニ謀テ此暴舉ニ及ヒタルモノトス

ヘンリー第四世ノ治世ヲ略論スベシ……  
 ヘンリー第四世ハ賢相サリト力ヲ合セ其施政宜シキヲ得佛國國民皆ナ其恩澤ニ浴シ農業復起シ商業恢復シ新工業起リ且ツ租税ハ除カル是ニ於テ王ハ諸國王中最モ人望ヲ得國民ニ敬慕セラル主少シク自制ノ氣象ニ乏シト雖モ賢主仁君タルコト疑フベカラス然ルニ一朝刺客ノタメニ車中ニ斃ル世或ハ王ヲ大王ト稱シ或ハ國民ノ父ト稱ス此王ニシテ此終リアル嗚呼悼哉

エリサベス女王ノ即位ノ初メニ於ケル政略ヲ述ベヨ……  
 エリサベスハヘンリー第八世ノ女ニシテ一千五百五十八年ヲ以テ王位ニ昇ル時ニ歳二十五實ニ父王ノ死后十一年トス然ルニ内外ノ舊教等ハ皆ナ其繼嗣ノ權利ナキヲ主張シ且ツ英吉利ノ舊教徒ハ蘇格蘭ノ女王馬利ヲ以テ正統ノ君主タルヘキ人ナリトスルヤエリサベ

ス密ニ惟ラダ今マ我執ルベキ最良ノ政畧ハ新教ヲ再興維持シ且ツ他國ノ新教徒ヲ援助スルニ在リト是故ニ即位ノ后幾ハクモナク彼ノ有名ナル政教主權及ビ教法統一ノ二令ヲ布キ以テ舊教ノ政治上ニ於ケル權威ヲ撲滅セントス所謂政教主權令トハ王位ニ屬セル僧侶及ヒ文武百官ヲシテエリサヘスナイグリスノ教會及ヒ政府ノ主權者トナシ且ツ外國ノ君主及ヒ法王ノ管治ヲ受ケサル誓約ヲナサシムルモノ即チ是ナリ又教法統一令ナルモノハ國教ニ屬セサル僧侶ノ說教ハ何ハタリトモ之レヲ聽クコトヲ許サザルモノ即チ是ナリ

●一千五百八十七年七月ニ起リタル英國及ヒ西班牙ノ戰狀ヲ記スベシ……此兩國ノ戰爭ノ起因タル大陸ノ舊教徒カイリサヘスヲ審シメ或ハ之ヲ廢セントスルノ謀畧ニシテ西班牙王ハ古來無双ノ大艦隊「インヴァインシル、アーメタ號」ヲ編制シ一千五百八十七年七月ヲ以テ英吉利ノ海峽ニ入ルエツフイングハム侯ホブアードナルモノ英艦隊ノ司令官トナリ之レヲ邀ヘテ連戰七日ニ及ヒ西班牙ノ艦隊大ニ破レ又マホブアード、ドレーク及ヒヘンリー、セーモールノ爲メニ襲撃セラレ后子遂ニ其本國ニ退カントスルニ當リ偶々颶風ノ起ルニ會シ初メリスボン府ヨリ解纜セル艦隊三分ノ二ヲ失ヒ纔ニ國ニ歸ルヲ得テ敗戦ノ慘狀ヲ報道スルニ過キカリキ此勝利タル英吉利ノ勝利ト見做サンヨリ寧ロ歐羅巴全島新教徒ノ勝利ト見做スヘキモノアリ蓋シ之カ爲メチランダノ獨立ヲ確認シフランスノ「ヒューゲノット」黨ノ勇氣ヲ振仰シ且ツ西班牙カ歐羅巴ニ振ヘル大權ヲモ打破シアリタリ

第三章 第十七世紀ノ大事件

●チャールズ第一世ノ死后英吉利ノ管理ハ何人ノ手ニ歸シタルヤ……チャールズ第一世ノ死后イギリスハ民主政体ヲ立テ國會之レヲ管理シ之レヲイギリス共和政治ト稱ス其繼續スルコト十一年ニシテ之レヲ分ツテ二期トス第一期ハチャールズ第一世ノ死ヨリクロンウエル主護職トナル時ニ至ル第二期ハクロンウエルノ治世トス

●クロンウエルノ内治政略ハ如何ン……クロンウエルハ英吉利ヲ管理スルニ專制壓抑ヲ以テシ其ノ權力ヲ保守センカ爲メ全國ヲ分テ十一管トナシ每管少將一人ヲ置キ無限ノ權力ヲ以テ下ヲ御セシム即チ國民ハ安リニ罰金ヲ科セラレ又ハ牢獄ニ繋ガレ又ハバーバードニ送ラレ奴隷トナリ更ニ之ニ抵抗スル能ハザリシ

●三十年戰爭ノ略史ヲ記スベシ……三十年戰爭ハ一千六百十八年ヲ以テ其端ヲ開キ其中心ハ日耳曼ニシテ歐亞大陸ノ諸國皆ナ之ニ干渉スルニ至レリ抑モ日耳曼帝第五世位ヲ辭シテヨリ國中ノ諸侯皆ナ獨立ノ勢ヲナシ新舊兩教徒ノ争ヒ絶ユルコトナク數世ノ皇帝皆ナ此禍亂ヲ定メ之レヲ統一スル能ハスフアーシナンド帝位ニ即クニ及ヒ西班牙ノ力ヲ藉リ以テ日耳曼帝國ヲ一統セントセリ王素ト舊教ヲ奉シ新教ヲ惡ム是ニ於テ新教徒大ニ驚キホヘミアール民新教ヲ奉スルモノフレテリック第五世ヲ推シテ王ト爲ス然トモ勢力微ニシテフアーシナンドノ爲メニ追ハレ

其領地ヲ沒收セテレフアーシナンド既ニボヘミヤニ勝チ全國ノ新教徒ヲ讒サントシ兵力ヲ用ヒテ新教徒伯ヲ攻メ殆ント日耳曼聯邦ヲ征服セントスデンマルク王クリスチアン第四世新教徒ニ與ミシ兵ヲ帥ヒテ日耳曼ニ入ルフアーシナンド其名將アレクサンダーニ命シテ之ヲ討タシムデンマーク破レテ國ニ歸リ援ヲスーデン王ガスタヴアス、アドルフスニ乞フガスタヴアス、アドルフスハ素ヨリ新教徒ヲ奉ス是ニ於テ兵七万五千ヲ卒ヒテ日耳曼ニ入り英吉利、及ヒ佛蘭西、聲援ヲ得テ連戰敵ヲ破リ大小八十餘城ヲ下シ遂ニ翌年九月ライプシツクノ平野ニ於テ日耳曼ノ將ナリーヲ破リシガラツエンノ劇戰ニ敗死セリ然レトモ宰相ヲクセンスチルン先王ノ志ヲ續キ再ヒ軍ヲ發シテ益々攻戰ス會々フランス兵食ヲ送リキリスノ壯士亦タ應援ス加之日耳曼帝其勇將ワレンスタインニ異志アリト疑ヒ之レヲ殺ス是ニ於テ新教徒ノ勢力漸ク振フ日耳曼ハ聯邦ノ瓦解ヲ慮リ和ヲ求ム議久シク決セス一千六百四十八年遂ニウエヌトフアリアノ條約ヲ以テ兵亂全ク止ム

●ガスタヴアス、アドルフスハ其出師ニ臨ミ國會ニ告グル所アリト云フ何ソヤ……一千六百三十年五月二日ガスタヴアスアドルフスハ其女クリステアナト言ヘル僅ニ四歳ナル嬰兒ヲ抱キ國會ニ臨ミ之ヲ以テ其將來ノ君主タラシメンコトヲ諭示シ且ツ訣別ノ辭ヲ述テ曰ク今ヤ我汝等ト共ニ戰ヲ起シ危險ヲ冒サントス然レトモ是レ實ニ輕舉ニアラス又タ放恣ニ出ルニモアラズ寔ニ止ムヲ得サレハナリ天帝上ニ照鑒ス我帥ヲ起スハ徒ニ功名ヲ求ムルカタメニアラス日耳曼帝既ニ汚辱ヲ加ヘ我仇敵ヲ扶ケ我カ朋友ヲ害シメ我宗

敵ヲ瀆シ且ツ毒手ヲ伸ハシテ我カ冠冕ヲ奪ハントスルニ至ルセルマン諸邦其抑壓ニ苦シミ大聲疾呼シテ援ヲ求ム我レ天帝ノ保佑ニ依リ將サニ往テ之レヲ援ケントスト

●一千六百七十二年ルイ第十四世ハナランダト戰端ヲ開キ繼テ歐羅巴全島皆テ第十四世紀ト抗戰スルニ至リシハ其原因如何ン……初メルイ第十四世ノ西班牙ヲ攻ムルヤ戰將サニ我ニ利アラントス而シテイギリス、スーデン、ナランダノ三國聯合シテ之ヲ遮斷セシハナランダ其謀主タリシノ故ヲ以テ之カ怨ミヲ報センカ爲メ王遂ニ戰端ヲ開クヤ僅ニ四十日ニシテナランダ全國ヲ壓服シ其首府アムステルダムヲ距ル僅ニ十二英里ノ地ニ達シ其滅亡旦夕ニ迫ル此時ニ當テナツソ一大公ノ裔ナレンシ公ウイリアム、セルマン洋及ヒライン河ノ水ヲ決シ之ヲ敵軍ニ注キ又艦隊ヲ發シテ敵ヲ撃タシム水師提督ライターハフランス及ヒイギリスノ聯合艦隊ト戰フコトニ回ニシテ勝敗相決セスト雖トモ概シテナランダ人ニ利アリ此時イギリスノ國會ハ其國ノフランスト聯合シテ新敵國ト抗戰スルヲ屑シトセス國王チャールズ二世ニ迫リ一千六百七十四年ヲ以テ其姪ヲレンゾ公ウイリアムト和約ヲ結ハシムルヤ四方ノ義士皆ナ心ヲウイリアムニ歸シ西班牙王日耳曼帝等亦干戈ヲ執テルイ第十四世ニ抗スルニ至リ是ニ於テ遂ニ歐羅巴全島ノ大戰争トナリチユーレン、コンデ、モンテケ、リ、ウイリアム、ノ如キ名將駢卒智勇ヲ盡シテ相戰フニ至レリ而シテ此戰爭全ク終局ヲ告ケタルハ一千六百七十八年ニメーゲンノ條約ニ基ケリ

●第十七世ニ於テ天文學、物理學、數學、等ニ有名ナルハ何人ニシテ又其發明ニ係ルモノ、一班ヲ舉ケヨ……

天文學ニ於テハ第十七世紀ノ初メガリレヲナルモノイタリニ起リ諸大惑星ニ附屬セル衛星及ヒ其運行ヲ發見シ之レニ次テ一層ノ大學士ケプラール出テ、非常ノ勉力ヲ以テ諸惑星ノ運行ヲ規制セル三大法則ヲ發見セリ世人之レヲ呼テ天体ノ制法者ト言ヘリニウードン之ニ次テ又起リケプラールノ業ヲ完成セリ其論証スル所ノ重力説ハ宇宙ノ重要ナル諸現象ヲ解釋シ且ツ有利界ヲ互ニ聯結規制スル所ノ原理ナリ其光リ及ヒ色ニ係ル説モ亦光學ノ基礎ニシテ又其著「プリンシピア」モ物理學ノ基礎トシテ今日人ノ尊崇スル所ナリニウトンハ又數學中最モ有力ノ利器微分積分ノ法ヲ發見セリ氏自ラ之レヲ稱シテ「ブラクシヨンス」ト言ヘリ此レト同時ニ日耳曼ノ哲學者フキブニツク別ニ此方ヲ發見セリ一奇事ト言フベシ天文學上ノ發見頻リニ起ルニ及ンテ航海ノ術亦タ改良ヲ加ヘ子ビアーハ對數表ヲ創製シテ計算ノ煩ヲ省キフロレンスノ物理學士トリセリハ靜水學ノ基礎ヲ立テ且ツ水銀ノ晴雨計ヲ創作シナツテケリツカハ排氣鐘ヲ發明シ又タハイヴエーハ血液循環ノ理ヲ發見シテ之ヲ世ニ公ケニシタリ

第四章 十八世紀ノ大事件

●シヨウシ三世ノ治世中アメリカニ一大事件ノ起原ヲ發シタリ其顛末如何ン……  
●シヨウシ三世ノ治世ハ殖民史上甚タ多事ヲ極メ其即位ノ后未タ五年ヲ出テスシテアメ

リカニ一大事件ノ兆候既ニ顯ル是レケレンザルノ施政中ニシテ一千七百六十五年印紙條例ヲ發セシトモ既ニ判決其形跡ヲ呈シタリ后此條例ヲ廢シタリト雖モ他ニ種々ノ租稅ヲ課シタルカ爲メ后子遂ニ一大戰爭ヲ惹起シ其結果ハアメリカノ獨立トナリ合衆共和國

●印度征服ノ事情ハ如何ン……

英佛兩國ガ印度ノ領地ヲ得ンカ爲メ大ニ戰ヒ英遂ニ全勝ヲ制シタルハ即チシヨウシ三世世ノ治政中ニシテ英吉利カ印度ニ於テ初メテ大ニ權力ヲ振ヒタルハクライブノ時ニシテ其后「フリチシュエイント」史上ニ最モ著名ナルモノヲウヲイレン、ハスチングストス而シテ實ニ其フランス人ノ征服セラレタルノミナラス印度ノ諸王モ次第ニ其勝服セラル、所トナル其領地ノ英吉利ノ版圖ニ入ルモノ實ニ少ナカラス故ヲ以テ現今英吉利政府ハ印度人民無慮ニ億ヲ管治セリ

●フレデリック大王少時ノ經歷ヲ述フアシ……

フレデリック大王ハ彼ノ有名ナルフレデリック二世ニシテ一千七百十三年ニ生ル父王苛虐ナルカ爲メ或ヒハ賊ヲレ或ハ罾ヲレ唯タバント水ヲ以テ其食トナス遂ニ堪ユル能ハサルヲ以テ逃走ス父王怒テ之ヲ脫兵トシテ死刑ニ處セラレントセシカ纔ニ免ル、ヲ得タリ其薰陶ノ宜シキヲ得カル此ノ如シト雖モ其眞ニ豪傑ノ資アルヲ以テ忍ンテ其時ノ至ルヲ待チ常ニ笛ヲ吹キ書ヲ著ハシ又タザナルテール及ヒ其他フランス新派ノ哲學士ト通信

●有名ナル七年戦争ノ性質及ヒ結果并ニプロシヤ人ノ死亡多ク土地ノ荒廢極メテ甚タシ大王ハ之レヲ如何ニ處分シタルヤ……

此七年ノ戦争タル一千七百五十六年ヲ以テ破裂シタルモノニシテフレデリック王實ニ其端ヲ開クト雖モ終始防禦ヲ主トセシヲ以テ援弔ノ罪ハ之レヲ王ニ歸スベカラス蓋シ此戦争ハチーストリア、フランクスト密約ヲ結ヒプロシヤ滅シテ其地ヲ分割センコトヲ謀リタルコト其原因ナリ其結果ニ至テハニアリ一ハフレデリック大王ハ世界有數ノ名將ノ一人ニシテ且ツ戰史并ニ國史上ニ於テ一紀元ヲ畫セル豪傑ノ一人タルコト第二ハ普魯士ハ爾后歐羅巴五大國ノ一ニ列シ羅馬帝國實ニ別レテチーストリア及ヒ普魯士ノ二大國トナリフランクストノ草名ニ至ル迄大陸ノ國力ノ平衡ヲ保チシコト是ナリ其后王ハ乃チ自ヲ任シテ戰亂ノ傷害ヲ療セシトシ飢民ニハ穀物ヲ給シテ食料及ヒ種子ニ充テ家屋ノ兵燹ニ罹リシ者ハ之ヲ新築シサイレシアニ六年間各種ノ租稅ヲ免シ其他ノ地方ニモ同シク恩典ヲ與フ但シ其年限ノ稍々短キノミ兵士ノ生存スルモノニハ之ニ優賞ヲ與ヘ戰死者ノ寡婦孤子ニハ各々扶助料ヲ給シ毫モ吝々所ナシト云フ

●魯西亞王ピーター大帝幼時ノ經歷及ヒ其即位ノ初メ其胸裏ニ發生シタル卓見ハ國ニ長港ナキハ是レ其微弱ノ一原因ナリトノ一事ナリ而シテ一千六百九十六年土耳其人ヨリアアフ海ヲ奪テ黑海ニ一ノ根據ヲ得而シテ后チ更ニ心ヲ決シテ土耳其ヲ威服スルニ足ルベキ一船隊ヲ編

制セントシ遂ニ其志ヲ果サソカ爲メ西國ニ赴キタル其經歷如何ヲ述ベヨ……

ピーター大帝ハ善帝アレキス(一千六百四十五年即位千六百七十六年死亡ス)ノ子ナリアレキスノ父ハミケヘルロマノフニシテ千六百十三年ヲ以テ帝トナル今代ノ皇族ハ此帝ヨリ起ルピーターハ一千六百七十二年ヲ以テ生レ后チ十年ヲ經テ異母兄イヴァント共ニ帝位ニ登ル然レドモイヴァンハ暗愚ニシテ只々虛名ヲ有スルノミピーターノ異母姉姿色美ニシテ胆略アリ政ヲ攝シ國事ヲ理シ遂ニ陰ニ謀テピーターヲ除カントスピーター其陰謀ヲ破テ獨リ政柄ヲ執ル時ニ年僅カニ十七ナリキ(千六百八十九年)而シテピーター帝ハ即位ノ后チ國政ヲ一人ノ老貴族ニ委シ親ヲ造船ノ術ヲ學ヒ且ツ其大冀圖ニ必要ナルベキ諸般ノ智識ヲ得ソカ爲メチラソダ及ヒイギリスニ至ル其ノヲラソダノサーダムニアルヤ自ラ尋常ノ船匠トナリ毎土曜日ノ夜賃銀ヲ受ケ毎日自炊シテ飲食ヲ調ヘ又網航ノ製造鍛冶ノ職業并ニ外科醫術ノ幾分ヲモ學ホリ又一千六百九十八年ヲ以テ英吉利ニ至リウイリアム三世ノ厚遇ヲ蒙リシト雖モ尋常王侯ノ如ク饗宴ニ光陰ヲ徒費セシ努力シテ船渠ヲ覽觀シ細ニ造船ノ事ヲ查察セリ

●ルイ十五世ノ治世ヲ概論スベシ……

ルイ第十五世ハルイ第十四世ノ后ヲ承ケ國庫空乏シ德義地ニ落チ亦之ヲ挽回スルノ道ナク事益々惡シク殊ニ王放肆度ナク其ノ嬖姫ボンバドリア、チユボリ朝政ヲ專ニシ奢侈逸樂至ラカルナク徵稅ノ酷ナル飢民ニモ飯ス處ナシ且ツ徒ニ功名ノ心ヲ滿タサソカ

速ニ戰爭ヲ起シ或ハ遊惰放肆唯々武ヲ是レ講シ他ノ職業ヲ蔑視シ衆貴族ヲシテ功業ヲ立テシシノカ爲メ干戈ヲ動セシト鮮少ナラス革命ノ兆既ニ此時ニ發セリ

ルイ第十六世即位ノ時フランスノ國情如何ン……ルイ第十六世ハルイ第十五世ノ死ニ由テ其手冠ト共ニ之ニ附屬セル諸般ノ艱難ヲ受ケタルニモ拘ハラヌ王后共ニ尙ホ少ニシテ國家ノ多事ヲ處スルノ經驗ニ乏シ蓋シ瓦解ノ徵候禍災ノ前兆既ニ顯ハレ萌芽ハ已ニ生長シテ旋風ノ收種トナラントセリ一百五十年間戰爭熄マヌ浪費度ナク國ノ財政困難ニ陥リ政府ノ信用全ク地ヲ拂ヒ國庫ハ二億万弗ノ不足ヲ來タシ人民ハ苛税ニ苦ミ騷擾其業ニ安ソセス其亂行恰モ半蠻民ノ如シ耕耘ヲ棄テ、潛商掠奪ヲ行ヒ以テ生命ヲ僥倖スルモノ少カラスルイ第十六世即位ノ時國情ノ艱難ナル實ニ名狀スベカラサルナリ

●アメリカ戰爭ノ結果ハフランス國民ニ何等ノ感情ヲ與ヘシカ……アメリカ人民カイギリスト干戈ヲ交ヘタルハ子ツケル佛蘭西國ノ施政中ニアリテ其獨立ヲ援ケタルモノハ則チフランス人民ニシテ是レ其誇稱スル處ナリ而シテ其自ラ成セシ功業ヲ見テ自ラ己ノ地位ヲ慨嘆シ是ニ於テ平民政ノ主義遠クアメリカヨリ來テフランス農民ノ鈍頭ニ入り農夫ハ貴族及ヒ僧侶ハ國土ノ三分ノ二ヲ有シナカラ共ニ租税ヲ免ル、モ二千五百万ノ同胞農夫ハ只々僅ニ國土ノ三分ノ一ヲ有シ然レトモ國稅ハ皆ナ之ヲ負担セサルヲ得サルノ不幸ヲ發見スルニ至レリ

●一千七百八十九年七月十四日前后ノ佛蘭西國情ヲ畧記セヨ……一千七百八十九年五月五日國會ヲ開設スルヤ國民黨ハ貴族及ヒ僧侶ノ特權ヲ全廢シ政治上及ヒ宗教上ノ自由ヲ許ス等悉ク舊制度ヲ破壞セントセリ王之ヲ威壓セント欲シ三万ノ兵ヲ以テ王宮及ヒ國會議場ニ集ムルヤ革命黨益々暴動ヲナシ竟ニ七月十四日ニ至リ巴里府民ノ狂亂益々甚シク大呼シテボステイルノ獄ヲ破ルベシトノ聲四方ニ達スルヤ全都怨ヲ響應シ衆意皆ナ此ニ向ヒ逐ニ之ヲ圍ムヤ其守將ローチー侯固ク守テ降ラス攻戰スルコト四時間遂ニ之レヲ陷落シ火ヲ放テ之ヲ灰燼ニ附シ暴民皆ナ紅血ニ染ミタル劍槍ヲ提ケテ巴里全市ヲ誇行セリ此時ヨリ人民主權ヲ握リヴェルサイノ護衛兵ヲ皆ナ解散シ王ノ巴里ニ來ルヤ之レヲ市館ニ迎ヘ纏フニ民政ノ記號タル三色章ヲ以テス后チ王及ヒ王族ハ正ニ火山ノ如キ巴里ヲ距ル僅ニ十二英里ナルヴヰルサイニ留リ宮殿禁苑ノ中ニ在テ徒ニ心ヲ傷シムルノミ七月十四日ヨリ八月四日ニ至ルマテ其地方ニ於テハ巴里ノ警報ニ接スルコト晝夜ヲ分タヌ遂ニ革命ノ氣運ハ全國ニ波及シ地方ノ亂民起リテ貴族ノ邸宅ヲ焚キ民望ヲ失ヒタル官吏取稅官等ニ復仇ヲ爲スニ至レリ是ニ於テカ貴族ハ二千五百万人ノ前ニ低頭シテ其財產ヲ償還シ言容ヲ和クルニアゾソバ命ヲ全フスルコト能ハサルコト實ニ昭々タルニ至レリ

●一千七百八十九年八月四日ハ應サニ記憶スベキノ日ニシテ貴族等平民ニ屈服シ大ニ怯懦ノ醜態ヲ顯ハシタリ日ナリ其顛末ヲ述ヘヨ……

● 歐洲各國議會天建力日之種種ハ之ヲ各種族ニ課シ貧富ニ應シテ之レヲ制規シ且ツ徭役ヲ  
廣シ封建ノ餘屬ハ皆ナ之ヲ除キ以テ税法ヲ改ムベシト會場ノ議士之ヲ聞キ半々恐レ半々ハ  
激昂シテ頗ル熱情ヲ顯ハシタリ又貴族ハ起テ其私益特權及ヒ免稅權ヲ拋棄シ僧侶ハ十分  
一稅并ニ賦金ヲ放擲セリ然レトモ今ヤ時機已ニ晚クシテ其効ヲ見ズ人民嘲テ曰ク貴族僧  
侶ノ所爲タル其己レニ保持スベカラサルモノヲ拋棄シ且ツ平民ノ既ニ武器ニ依テ確立シ  
タル政治上ノ平等ヲ今ニシテ承認スルモ我ニテイテ何カアヲメヤト

● 恐怖ノ世トハ何ソヤ………  
フランスヲ沸騰セシメル革命ノ氣焰ハ延テ歐羅巴各國ノ王ヲ威嚇シ之レヲシテ其安危未  
慮カラシムルニ至リ埃地利及ヒ普魯士ノ兩國先ツ兵ヲ起シテ佛蘭西兵ヲ扶テ革命黨ニ敵  
意ヲ示スヤ立法議會ハ忽チ開戦ノ命ヲ布ク而シテ普魯士及ヒ埃地利ノ王フランスノ勤王黨  
ニ合シテ入寇スルヤ議會ハ二万ノ義勇兵ヲ以テ之ヲ退クタリ而シテ巴利ノ暴民益々爲メ  
ニ王ヲ敵視スルニ至リブスビールノ徒ニ煽動セラレルニ王ヲ廢センコトヲ要求シ遂ニ八  
月十日「テユイレリ」宮ハ暴民ノ襲撃スル處トナリ宮廷防禦ノ命ヲ受ケタル戌兵却テ  
宮殿ニ對シ發砲スルニ至リ王兵奮戰シテ全ク其粉塵スル處トナリ王及ヒ皇族ハ遁レテ立  
法議會ニ至リ十四日ナリ以テ舊ノ塔獄ニ移サル此時ヲ以テ史上ニ所謂恐怖ノ世ト云フ懼ル  
ヘキ時期トナレリ當時ダントノ建議シテ曰ク宜シク煽動者ヲ巢滅シ勤王家ヲ恐怖セシメ  
以テ敵ヲ遏止スベシト則チ此革命ニ熱中セサルモノ數百人陸續獄ニ投セラル、ニ至リ

● 新政府ノ設立ヨリルイ第十六世ノ審問終決ニ至ルマテノ事情ヲ畧説スベシ………  
一千七百九十二年九月二十日立法議會一年ノ任期既ニ盡キ代議會之レニ代リ之ヲ國民議  
會ト稱ス舊立法議會ノ立憲政黨即チ「フエイランツ」黨ハ先キニ革命ノ激激中ニ其跡ヲ收  
メ今ヤ國民議會ハ温和共和黨ト赤共和黨ノ二派ニ分レ議堂ニアツテハ温和共和黨多數ヲ  
占ムルト雖モ赤共和黨ハダントシ、ロブスピール及ヒマリアーノ三傑アルカ故ニ能ク之  
ヲ攻撃スルノ勢ヲ有シ大ニ革命ニ利アリ其他巴利賤民ハ皆之ニ應援セリ而シテ其政略  
ノ主義ハ甚々簡明ニシテ即チ王ヲ殺シテ共和政治ヲ立ツルニアリ而シテ國民議會ノ第一  
着ニ共和政事ノ建立ヲ公布シ次ニ國王ノ審問ニ着手セリルイ第十六世ハ塔獄ニ幽セラレ  
テヨリ四ヶ月ヲ閱ミシ一千七百九十二年十一月十三日仇敵ノ訟廷ニ出テ判事ノ前ニ立テ  
自惹トシテ憶スル色ナシ始メ王自ラ辨護人ヲ求メ某ヲ撰ヒシニ其人ノヲ肯セサルヤ王ノ  
治世ノ初ノ嘗テ宰相ノ一人タリシマルセルフ進ンテ王ヲ辨護センコトヲ請フ而シテ其大  
ニ王ヲ辨護スルノ后ヲ議論沸騰シテ長ク決セヌ此時ロブスピール曰ク吾人カ熱心此國ニ  
竭ス最后ノ証據タル只タ一切ノ人情ヲ吾人ノ胸裡ヨリ排除スルニアリト之レニ反シテ温  
和共和黨ハ努力王ヲ辨護セシト雖モ議論遂ニ止ミ三條ノ疑問ヲ上ケテ以テ之レヲ投票ニ  
附シタリ即チ王ノ罪ノ有無人民ニ訴フルノ可否及ヒ其刑罰ノ如何是ナリ於是王ノ審問全  
ク終結ヲ告タリ

衆員ノ投票皆ナ王ヲ認メテ有罪トナシ而シテ人民ニ訴フルノ議ハ則チ排斥セラレ只タ餘  
ス所ハ如何ナル刑罰ヲ蒙ラスベキヤノ疑問之ナリ然トモ議員一人トシテ説キ吐クモノナ  
シ蓋シ殘虐ノ暴民議堂ノ戸邊ニ集リ荷モ王ヲ憐ムモノアレハ大ニ之ヲ恐嚇シ其衷心最モ  
王ヲ救ハント願フモノスラ恐怖ノ念ヲ抱クニ至リタレバナリ此ノ如クニシテ投票ヲ行フ  
コト十日間ニ亘リ終ニ議長ヴェルニヨウ聲ヲ勵マシテ投票ノ結果ヲ報ス七百廿一ノ投票  
中王ヲ死ニ處セントスルモノ廿六ノ多數ニ居リ且ツ廿四時間中モニ之ヲ執行セントスル  
ニ決セリト

ルイ第十四世死形ノ狀ヲ述ベヨ……  
ルイ第十四世夜十ヨリ熟睡シ翌朝五時ニ至テ起キ僧ヨリ聖晚餐ノ禮ヲ受ク實ニ一千七百  
九十二年一月二十一日朝八時ヲ報スルヤ官吏數人來ル既ニシテ王ヲ衛士二列ノ間ニ護送  
シ十時三十分革命場ニ達ス場ニ大空地アリ中ニ刑台ヲ立テ彼ノ恐ルベキ斷頭機ヲ備ヘ周  
圍ハ衛士之レヲ警固シ又賤民、塲ヲ繞テ罵々叫號スルイ衆ニ對シテ言テ曰ク余今罪ナク  
ンテ死ニ就ク予ハ予カ敵ヲ釋ス何等不幸ノ民云々ト尙ホ語ヲ續カントセシカ忽チ鼓聲起  
テ王ノ聲ヲ亂ル乃チ僧王ニ耳語シテセントルイノ子ヨ天ニ昇レト言フヤ王ノ命即チ絶ヘ  
タリ

●新政府ノ組織ハ如何ノ……  
是ヨリフランスノ外寇ヲ防禦シテ毎ニ勝利ヲ得一千七百九十五年フランスノ大將ビーエ

タチ兵一ラチンヌヲ從ヘ大テフシヤ及ビ西班牙ト和議ヲ講シ一千七百九十五年更ニ新  
憲法ヲ制定シ二局ノ立法院ヲ設立シ一チ五百名會議ト云ヒ法律規則ノ議案ヲ提出シ一チ  
元老院會議ト云ヒ之レヲ否可増減スルノ權ヲ有ス而シテ行政ノ兵權ハ五人ノ上官アリテ  
之ヲ掌握シ各上官ハ三月毎ニ交代シテ大統領ノ任ヲ取ルモノトス此改革政府ヲ各ケテ  
上官政府トス

●ナポレチンノ事蹟ヲ略記スベシ……  
ナポレチンハ一千七百六十九年地中海ノ小島コルシカニ生ル十歳ニシテフランスノアメリ  
ソノ兵學校ニ入り修學五年余パリニ赴キウィロン攻撃ノ際大ニ名聲ヲ博シタリ一千八  
百九十六年共和政府三軍ヲ發シテ外寇ヲ拒カシムモロー及ヒシヨダンニ將ハ日耳曼軍  
ニ將トナリナポレチンハ伊太利軍ニ將タリナポレチン、ナイスノ地ヨリ三万六千ノ兵ヲ  
率ヒテ伊太利ニ入り敵戰敵ヲ敗リ全國ヲ震盪シ進ンテヴェニスヲ覆シ更ニ奧地利ノウイ  
ンナ府ヲ攻メントセシガ奧地利和ヲ請フニ依リ一千七百九十七年條約ヲ結ビウエヒスヲ  
除キ其侵略シタル地ハ悉クフランスノ有トナセリ次テイギリス、ロシア、ポルトガル、  
ノ連合スルヤ伊太利又フランスノ羈軛ヲ脱セリナポレチン建議シテ埃及ヲ征シ以テ英吉  
利ノ商權ヲ奪ハント請ヒ兵三万六千ヲ率ヒ直チニ埃及ニ赴キ先ツアレキサンドリヲ陷  
ルカイローニ進ミ金字塔下ニアメリエーグ人ヲ破リ遂ニ埃及國ヲ從ヘタリ時ニイギリス  
兼將子ルソン海軍ヲ率ヒ來リフランスノ軍艦ヲ襲ヒ悉ク之ヲ擊破セリナポレチン屈セズ



難シテ土耳其人ヲ破リ埃及ニ退ク一千七百九十九年ナホレラン本國政府ノ擾亂ヲ聞キ其  
 將クローバーヲシテ埃及ノ全軍ヲ指揮セシメ密ニ本國ニ歸リ十一月十日ヲ以テ自ラ  
 「アンシヤン」會場ニ莅ミ痛ク憲法ヲ論難シ己レニ反スル議員ハ兵力ヲ以テ之レヲ放逐シ  
 自ラ執政ノ職ニ登リ新ニ憲法ヲ制定シ更ニ二人ノ執政官ヲ置キ任期ヲ十年ト定メ尙ホ補  
 助トシテ百名ノ保民官三百人ノ立法官及ヒ八十人ノ元老院議官ヲ設ケタリナホレラン既  
 ニフランスヲ奉定シテ其秩序ヲ恢復セリ然ルニ歐務諸國ルイ第十八世ヲ以テ佛蘭西正統  
 ノ君主トホシナホレランヲ以テ篡賊トナスナホレラン因テ大ニ兵ヲ募ク一千八百零一年日耳  
 曼ヲ攻撃スト聲言シ徐カニアルプス山ヲ經エテ伊太利ニ進入シマレンユノ原野ニ於テ埃  
 地利ノ軍ヲ破リフランスノ將モローモ亦ヲホレラン河半ヨリ日耳曼内地ニ進ミ行ク埃地利  
 ノ兵ヲ破リウインナニ迫ル埃地利遂ニ和ヲ請フカテ英吉利ト和シニスミアンス條約ヲ  
 結セニ時ノ休戰ヲ定ム是ニ於テ元老院ハホレランヲ以テ終身「コンサル」官ニ任スナホ  
 レラン意ヲ國事ニ用ヒ當時其制定シタル法律ノ如キハ長クナホレラン法典トシテ世ニ行  
 ハル其他裁判、商業、製造、教育、宗教、技藝等皆ナ之レヲ獎勵進歩セシムフランス今ニ至  
 ルマテ其遺澤ヲ蒙ル一千八百三十年英吉利トノ和親破ル、ニ及ンテ埃地利及ヒ普魯西ノ  
 二國英吉利ト連合スナホレラン國勢危急ノ際ニ乘シ巧ミニ元老院ヲ瞞着シ「コンサル」  
 官制ヲ廢シ帝政國ヲ創立シ自ラ帝位ニ着カント欲シ之レヲ輿論ニ諮フ否トスナホレラン僅ニ  
 四千八國中舉テ之ヲ齎戴スルニ意アリ因テ一千八百零四年五月十一日ホレラン一世ノ稱

號ヲ以テフランス國世襲ノ皇帝トナル而シテ法王ピアス第七世ノ加冠ヲ受ケタリナホレ  
 ナンハ埃地利、普魯西、英吉利ノ三國連合ノ兵ヲ破ラント欲シ戰備ヲ修ム會々埃地利ノ  
 軍二十萬人ライン河畔ニ進ミフランスノ軍亦之ヲ援クルト聞キ直チニ十六万ノ兵ヲ率ヒ  
 ライン河ヲ渡リ埃地利ノ軍ト戰ヒ大ニ之レニ勝ツ又進ンテアステルリツニ往キ埃地利及  
 ヒフランスノ兵ト戰ヒ又大ニ之ヲ破ル埃地利帝ソランシス第一世自ラ軍門ニ來テ和ヲ乞  
 フナホレラン大陸ノ戰爭ニ於テ既ニ大ニ勝ヲ得タリト雖トモ海軍ニ於テハ千八百零五年一  
 月英吉利ノ將子ルソンノタメニトラファアルカイ岬ノ戰ニ於テ西班牙ノ同盟艦隊ヲ覆没セ  
 ラルナホレランハゴワリア及ヒウルデンビルクヲ王國トス之ニバーデンヘツセテ加ヘテ  
 ライン同盟ヲ造リ之ヲシテ日耳曼聯邦ヨリ脫セシメ自ラ之レカ保護者トナレリ千八百零  
 六年子一ブルスヲ取テ之レヲ其同胞シヨセフニ與ヘテフランスノ共和政ヲ變シテ王國トナシ  
 之レヲ其弟ルイ八世トシテ後チ亦フランスヲ攻メテ之レヲ破リベルリンニ入ル次チエー  
 セーニアアルフランスヤ及ヒロシア連合ノ兵ヲ走ラシ長驅シテプリーランドニ戰ヒ大ニ之ニ  
 勝ツロシア帝遂ニ和ヲ乞フ是ニ於テ三國休戰ヲ約スナホレラン亦タ英吉利ニ對スル軍略  
 ナ改メ一千八百零六年一月大陸合縱ノ法ヲ設ケ大陸諸國ト英吉利トノ貿易ヲ禁シ其利源ヲ  
 閉塞シタリホルトガル及ヒトルコヲ除キ皆ナ此法ヲ遵守シタルヲ以テ英吉利大ニ苦シメ  
 リナホレランハホルトガルノ獨リ合縱法ニ與セサルヲ怒リ先ツ之レヲ征シ以テ西班牙ヲ  
 廢シテ其弟シヨセフヲシテ西班牙、ホルトガルノ王トナス然レトモ兩國ノ人民ハシヨセ

ヲ奉戴セシ英吉利ノ援兵ニ由テ之レヲ逐フ帝此報ヲ得直チニ巴里ヲ發シ英吉利ノ兵ヲ逐攘シ自ラ西班牙王位ニ登ル時ニ奧地利國又々和親ヲ破リ頻リニフランスヲ凌カメトス帝又自ラ兵ヲ帥ヒテ之レヲ征シ苦戰數回ニシテ再ヒウインナヲ畧ス此ニ於テ奧地利國復々和ヲ請ヒタルヲ以テフランスハ爲メニ廣大ナル領地ヲ得タリ一千八百十二年ロシア帝ノ盟約ニ背戻シ英吉利船ヲ自國ノ港内ニ入ルヲ許スヤナボレチン大ニ怒リ親ヲ五十万ノ兵ニ將トシニイマシ河ヲ渡リボロテイノノ激戰ニ於テ大ニロシア軍ヲ破リ長驅シテモスコー府ニ入ル府民遁走シテ到ル處隻影ヲ止メス既ニシテロシア人火ヲモスコーニ放チ之ヲ灰燼ニ付シタリフランス軍ハ凍餓ニ苦シム是ニ於テナボレチン軍ヲ退ク然ルニ積雪脛ノ没シ且ツロシア兵ノ爲メニ急迫セラレフランス軍多ク道ニ斃ルナボレチン身ヲ拔ヒテ漸クフランスニ歸ルヲ得タリ此敗報一タヒ歐亞ニ達スルヤ列國皆ナ其機ニ乘メ兵ヲ合セ巴里ニ向フナボレチンカヲ竭メ之レヲ防禦スト雖トモ終ニ之レヲ支フル能ハス巴里忽チ陷落ス一千八百十四年三月ナボレチンハ帝號ヲ剝奪セラレエルバ島ニ謫セラルル后チルオ第十八世フランスノ王位ニ即キシカ庸劣暗愚ニ人望ヲ得ル能ハス國民還テナボレチンヲ懷フ一千八百十五年三月ナボレチンハ竊ガニエルハ島ヲ逃レテフランスニ歸ルヤフランス人歡呼シテ之レヲ迎フ日ナラスシテ巴里ニ入リルイヲ逐ヒ再ヒ皇帝ノ位ニ即キタリ歐亞列國之ヲ聞キ大ニ驚キナボレチンヲ以テ天下ノ公敵トナシ之レヲ征討スルノ謀略ヲ定メ英吉利ノ將ウエルリントン同盟軍ニ將トシテ白耳義ニアルヤナボレチンハ他國ノ援

兵未タ來ラサルニ先テ之ヲ攻撃セント欲シ同盟軍ト大ニハートルローニ戰ヒ又々敗績シテ巴里ニ歸ル千八百十五年六月十八日ナボレチンハ自ラ其位ヲ辭シ英吉利ノ保護ヲ乞フ列國再ヒルイヲ帝トナシナボレチンヲ遠ク大西洋ノ一孤島セントヘレナニ流ス后チ六年ヲ經テ没ス

第五章 第十九世紀ノ大事件

一千七百十九年十一月十日ナボレチンハ何事ヲ爲シタルヤ………此日フランスノ五百會員及ヒ元老院議員ハセントクルーニ於テ集會ス是ヨリ先キナボレチンハ總軍ノ都督ニ任セラル當日元老院議會ニ至ルヤ當時ノ憲法ヲ非難シタリ議員ハ一驚ヲ喫シ敢テ言ヲ發スルモノナカリシ乃チ之レヲ去リ更ニ精兵士官二十人許ヲ率ヒテ五百員會ノ議會ニ至リ又々烈シク其議員ノ失政ヲ論難シ其憲法ニ服從スルヲ否ミ且ツ失政官ヲ不能者ナリト宣言セリ議員之ヲ怒リ或ハ彼ヲ追テヨ彼ヲ退ケヨト號呼スルモノアリナボレチンハ如斯場合ニ馴レザルヲ以テ即チ赦然トシ退キ馬ニ騎シテ出ツ軍隊万歳ヲ唱フナボレチン之レヲ顧ミ揚言シテ曰ク勇卒等ヨ我レ能ク卿等ヲ恃ムヲ得ヘキカ皆ナ之ニ答テ曰ク諾々ト乃チムーラ一隊ノ精兵ヲ將ヒ又々議會ニ至リ議員ヲ追ヒ大鼓ヲ鳴ラシテ其抗論ヲ聽フ得サシメタリ

●英國王ウイリアム第四世即位ノ當時ニ於ケル國會ニ關スル一問題アリ何ソヤ………是ヨリ先國會議員ノ改革ヲ要スヘキノ論議漸ク露々タリシコト數年ナリシカ是ニ於テ其

改革大ニ緊要トナリ是レ當時ノ一問題ナリトス蓋シリアアール及ヒマンチエスタ  
ノ如キ人口稠密ノ諸府ハ一人モ議員ヲ出サス却テ微々タル小市邑ヨリ一名以上ノ議員ヲ  
出セリ而シテ斯ル微邑若クハ敗市ト稱セラル、地ニ於テハ財産大抵一人ノ富豪者ニ歸シ撰  
舉ハ其人ノ命スル所ノマ、ナリ故テ以テ人口多クシテ國會ニ代議員ヲ出ササル大都府ハ  
已ニ此撰舉法ヲ甘スル能ハス露々トシテ國會ノ改革ヲ請求スルニ至レリ

●千八百四十八年國會新憲法ノ制定ヨリルイ、ナボレチン即位ニ至ルマテノ事情ヲ記スベシ  
ルイ、フイリツプ王ノ逃走后既ニ共和政治トナリ普通撰舉法ニ依テ議員ヲ撰舉シ千八百  
四十八年國會ヲ開キタリト雖モ巴里ハ尙ホ恰モ無政府ノ状態ナリ而シテ其十一月ニ至リ  
國會新憲法ヲ制定シテ共和政府ノ大統領ニ委任シ大統領ハ全國ノ人民之ヲ撰舉シ  
四年間其職ニアルモノトセシヨリ先ニルイ、ナボレチンハセイノ議員ニ撰ハレ是ニ  
至テ大統領ノ候補者トナリ翌月フランス人民五百五十万人ノ投票ニ因テ大統領トナレリ  
而シテ其就職ノ始ヨリ自ラフランスノ國王トナラントスルノ大望ヲ有シ遂ニ千八百五十  
一年十二月二日ヲ以テ所謂國家ノ博擊ヲ行ヒ其反對者ヲ捕縛シ國會ヲ解散シ普通撰  
舉ヲ恢復シ巴里ヲ軍法ノ下ニ立タシメ暴民ヲ鎮壓シ千八百五十二年一月十四日ヲ以テ  
新ニ憲法ヲ制シフランスノ政府ヲシテ十年間其掌裡ニ歸セシメ則チ七百万以上ノ投票ヲ  
以テ撰ハレテ帝トナリ千八百五十二年十二月二日ヲ以テ帝位ニ即キナボレチン第三世ト  
稱シタリ

●千八百四十八年伊太利ノ革命ハ如何ナル結果ヲ生シタルヤ………  
一、千八百四十六年バイアスノ法王トナルヤ其領地ノ人民ハ漸ク有用ノ改革ヲ行ハントセ  
リ然ルニ澳地利人自由ノ漸ク伊太利ニ發生スルヲ見テ大ニ驚キ一千八百四十七年其ノフ  
エルラニ入ルヤ中部イタリノ人民干戈ヲ取テ之レニ抗敵セリ其翌年ロンバードイ  
於テ革命ノ氣焰ヲ發生シテ澳地利ノ兵ハミランヨリ驅逐セラル當時サルディニア王チア  
ーレス、アルベルド、モ戦地ニ臨ミタリ然レトモ凱戦ノ時久サシク繼續セス澳地利ノ兵  
幾モナクロンバードイヲ恢復シテサルディニアニ進入スチアールス、アルベルトハ一千  
八百四十九年ノヴァアラニ敗績シ遂ニ位ヲ其子ブイクトル、エマニユエル、第二世ニ讓ル  
ヴエニスハ先キニ共和政治トナリシカ是ニ至テ又澳地利兵ノ爲メニ征服セラレ羅馬ハ是  
ヨリ先キ共和政治ヲ建テシモ亦タフランス新共和政府ノ發遣セル軍兵ノ征服スル所トナ  
リ其他伊太利諸邦ニ於テモ其君主等一時革命ノ勢ニ怖レテ憲法ヲ制定セントセシ者モ皆  
ナ之ヲ停止シタリ故ニ一千八百四十九年以後ハ伊太利ノ事態叛亂以前ト更ニ相異ナル所  
トシ

●伊太利王國ハ幾年ノ建立ニ係ルヤ………  
伊太利王國ノ建立ハ一千八百六十一年ニアリトス始メヴェイルヲフランカ條約ノ締結アリ  
シヨリ澳地利ハサルディニア王ニ割與スルニミンチヨ河以西ノロンバードイノ地ヲ以  
テシ后チタスカニー、モデナ、ボルマ、及ヒローマグチノ諸邦ハ人民總体ノ投票ヲ以テ

サルデニア王國ニ屬シ亦タ赤嶺ノ豪傑ヲヨセフ、ガリバルデー、ナルモノ突然カブレ  
 イラノ岩島ヨリ起テウイクトルエマニエルの總督ト稱シシ、ローノ都府ボレルモヲ掠  
 奪シレツシヲ降シ后子亦サルデニアノ兵モ法王ノ領地ニ進入シ其軍ヲ破リ且其海港ヲ  
 ンコナヲ降タシ其他數々勝利ヲ得テ遂ニ兩シ、ロー王國ヲ其屬邦トナシ自餘ノ諸邦モ法  
 王ノ所領ト墮地利領グエ子シアヲ除キ或ハ投票ニ由リ或ハ革命ニ由リテ一千八百六十年  
 皆ナ伊太利王國ニ合同セラレ而シテ伊太利ノ國會ウイクトル、エマニエル、ヲ以テ伊  
 太利ノ王トナシタリ

● フランス帝ナポレオン三世ノ普魯士トノ戦争ヲ宣布スルニ當テ南部日耳曼人ノ威情ハ果  
 シテフランス帝ノ豫想ニ違ハサルヤ………  
 一千八百七十年七月ナポレオン三世ノ普魯士ニ對スル戦争ヲ宣布スルヤ自ラ以爲ク南  
 部日耳曼ハ從ヒフランスニ應援セサルモ必ラス中立ノ位地ニ立ツベシト何ソ謀ラン大ニ  
 其失望ヲ來セリ蓋シ南北兩邦互ニ相軋轢スルカ如キ細事ハ幾クモナラスノ全ク其跡ヲ收  
 メ南部日耳曼諸邦多クハ此戦争ノ真相タル多年屈辱ヲ受ケタル日耳曼ニ對シフランスカ  
 傲慢凌駕ノ情ヲ恣ニスルモノタルコトヲ發見シ喜ンテプロシヤト同盟シタリ而シテ獨リ  
 其局外ニ立ツモノハ墮地利及ヒ其他墮家ノ版圖ニアルモノ、ミ

● 千八百七十年八月ヲ以テ其端ヲ開キタル普魯士、佛蘭西諸國ノ重要ナルモノ二三ヲ擧ケヨ  
 フランス兵ノセルマンニ侵入スルヤ一千八百七十年八月初旬初メテ干戈ヲ交フ之フウワ

イセンブルグノ戦争ト稱シ日耳曼軍ハ普魯士ノ太子ヲ將トナシ八月四日佛軍ト激戦ス而  
 シテ佛軍ノ敗績スルヤ太子ノ軍進ンテフランスノ境内ニ陣ス八月六日日佛兵ト佛將マク  
 マホンノ兵トフースニ戦ヒ佛兵又敗ラル又其他ノ日軍モ亦タ凡ソ同日ヲ以テ勝利ヲ得タ  
 ルモノ少カラス是ニ於テ日ノ全軍悉ク佛ノ國境ニ入ル大將ハセーネ旗下ナル佛ノ本軍ハ  
 數々メツツノ近傍ニ於テ日軍ノタメニ破ラレ又タ佛兵ノ他ノ地方ニ戦ヒシモノモ皆ナ遂  
 ハレテ四方ヨリセタンニ集リ遂ニ日人ノ爲メニ困マル(九月一日)而シテ遂ニ八万ノ佛軍  
 力盡キテ皆ナ普人ニ降ルナポレオン三世モ此軍ニアリ佩劍ヲ解テ之ヲ普王ウイリアム  
 ニ交附シカツセルノ近傍ウエルヘルムンエーニ城ヲ得テ此ニ居ルセタン陷落ノ后緩クモ  
 ナク太子二軍ヲ師ヒテ巴里ヲ囲ム(九月十日)而シテ其第三軍ハ南方及ヒ南東方ノ地ヲ占  
 メ又別軍ハ北方及ヒ北東方ヲ占ム佛軍屢々日軍ノ困線ヲ破ランコト々企(九日及十日)ツ  
 ト雖モ皆ナ退ケラル此時巴里ヲ救ハンカタメ新ニ佛軍ヲ募集セシト雖トモ佛人又タ更ニ  
 禍ヲ蒙レリ即チ日軍ノタメニメツツニ困マレタル大將ハセーハ數々困ヲ潰シテ脱レント  
 セシモ成ラス遂ニ十月二十七日十七万ノ全軍ヲ擧ケテ日軍ニ降服セリ千八百七十一年一  
 月佛人ハ巴里ヨリ最后ノ脱出ヲ企テタリト雖トモ敵ノタメニ退ケラレ死傷甚タ多シ又戰  
 地ニアル諸軍或ハ少シク勝利ヲ得タルコトナキニアラザレトモ后チ皆ナ敗績シタルカ故  
 ナポレオンノ降伏后國務ヲ處理セシ護國政府モ遂ニ和約ノ談判ヲ開キ一千八百七十一年  
 一月二十八日巴里日耳曼ニ降ル

● フランクホード和親條約ノ要款ヲ舉テ併セテ普、佛兩國ノ戰爭ハ如何ナル結果ヲ顯シタルヤ……  
 フランクホードノ和親條約ノ要款タル佛ノタメニ不利ニシテ日耳曼ニ與フルニアルサス及ヒローレインノ兩地ヲ以テ且ツ五十万「フランク」ノ價金ヲ拂フヘキモノトス此約條調印ハ千八百七十一年五月十日ナリトス然シテ先キニ墺地利ト普魯士ノ戰爭ハプロシヤヲ日耳曼中ノ第一位ニ昇ラシメ又佛、普ノ戰爭ハ日ヲシテ歐筋中ノ第一位ニ昇ラシメタルモノニシテ其結果實ニ洪大ト言ハサルヲ得サルナリ

附 錄 入 學 試 驗 問 題

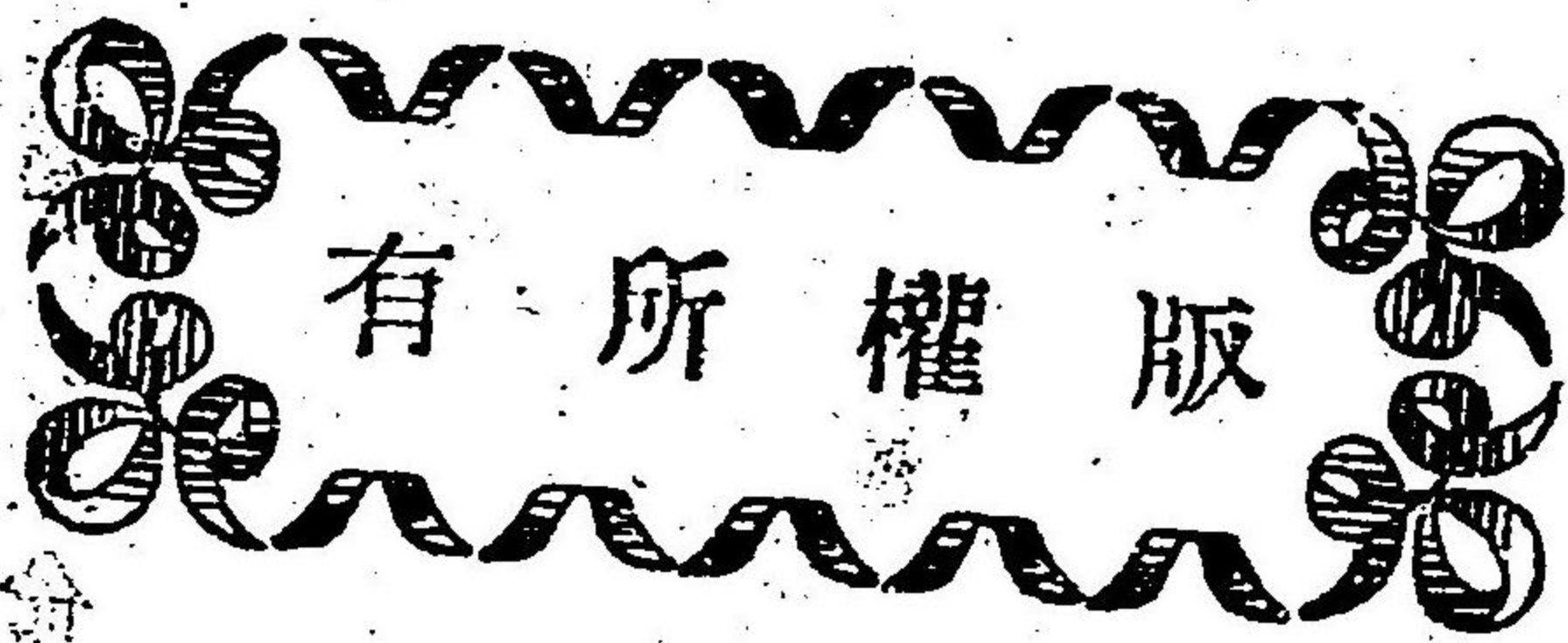
● 第一高等中學校萬國歷史科設問

- 第一 Leonidasの事蹟の概要を挙げよ。
- 第二 土耳其人のコンスタンチノープルを奪取せし年代と其顛末の概略を記せよ。
- 第三 波蘭分割の年代及其顛末を略述せよ。
  - 東京商業學校萬國歷史科設問
- 第一 墺地利繼承の亂とは何ぞ。
- 東京郵便電信學校萬國歷史科設問
- 第一 ペロポネシアン、ウチナーアとは何ぞ。
- 第二 シュリアス、シーザーの偉蹟を略述せよ。

- 第三 第十七世紀中の大事變と稱すべきものは何ぞ。
- 第四 英國スチュアルト王統時代に於ける君王、議院、兩者間の政治的軋轢の情況如何。
- 第五 佛蘭西の革命戰爭の歐洲の文明に如何なる刺戟を與へしや。

明治廿五年八月五日印刷  
明治廿五年八月五日出版

(定價金四錢)



### 版權登錄

發行者  
專賣所

全

印刷者

大阪市北區堂島中町二丁目百六十七番屋敷  
吉見經綸

大阪市東區安土町四丁目三十八番屋敷  
鈴木常松

大阪市東區安土町四丁目十一番屋敷  
積善館

福岡市博多中島町  
積善館支店

大阪市南區末吉橋通四丁目四十二番屋敷  
山口恒七

## 明治廿四年 步兵操典

攝陽永松毅軒君著

## 國民振氣篇

日本青年立志要訣  
本書は勅語の趣旨に基き編纂せしものにして凡人たるもの良心を啓培し廉耻を重じ貞淑禮敬等の徳性を涵養し尊王愛國の志氣を養成すること注意し古今人の稱すへき言行事蹟に於て後者の模範と爲るべきものを輯め文章を平易流暢にし之を忠義、孝心、貞節、友愛、勤勉、愛國、耐忍、剛毅、立志、節儉、廉潔、謙讓、等の部門に分ち門毎に其大體を説き事蹟の終に格言を記し小學生徒より一般青年子弟に讀ましめ志を立て身を修め家を齊んと奮發興起し以て勅語の趣旨に背かず各世に立つ所の志氣を養成するの一大至寶の書なり大阪府尋常中學校教諭吉見經綸君編纂

## 漢文入門

洋裝美本全壹冊實價金拾貳錢拾部以上壹纏御注文之節特別壹割引郵送料を要せず  
本書は尋常師範學校及中學校商業學校漢文科教科用書として編纂せられたるものなり編纂の要領は讀者をして漢文學の要領を知り漢文の練習を得せしむるを目的として編纂せられたり故に主として文章平易にして主意教育上の價值あるものを撰擇せられ編纂の順序の如きも専ら教育上の原則に準據せられたり大方教育家諸君冀くは其閱を給りて續々教科書に採用せられんことを

## 新撰漢文軌範

一六居士巖谷修君 鴻齋石川英君序 河野春颯君閱 福井淳君著  
郵稅共實價 全貳冊 金三拾五錢  
本書ハ卷首ニ文体式解句作文諸法ヲ述ヘ而シテ漢文ノ摸範トナルベキモノヲ甄別編纂シ賴山陽先生ヲ始メ文學博士重野成齋先生及ビ諸名家ノ批評ヲ掲ケ龍頭ニハ難解ノ熟字ヲ解釋掲載シ文法明了作法瞭然タルモノニシテ漢文ヲ學ブ者ノ一大好材料ト謂フ可キ珍書ナリ

洋裝寸珍美本全一冊  
正價金拾錢郵稅要セズ

近藤元粹君序 松本謙堂君著

# 漢文指南

正價 金貳拾五錢  
郵稅 金四錢

本書ハ專ラ我日本ノ文壇ニ雄視スル古今諸名家ノ傑作ニ係ル文詩中尤モ粹ナルモノヲ採集シ一ノ文詩毎ニ邦文ヲ以テ之ヲ譯シ而シテ簡明ニ其意ト法トヲ釋キ毫モ餘蘊ナキモノニシテ初學漢ノ文詩ヲ學ブノ階梯ニ適切ナルハ論ヲ俟タズ且ツ每編文學博士重野成齋中村敬字兩先生其他諸名家ノ卓見ニ係ル評語ヲ附シ文思才識ヲ開發スルノ裨益ヲ與ヘタルモノナリ苟モ作文ニ從事スル諸士ガ机上ノ清玩トナサバ明治至隆至治ノ文彩ヲ煥發スルヤ蓋シ疑ヲ容レズ南州北史近藤先生ノ序中ニ

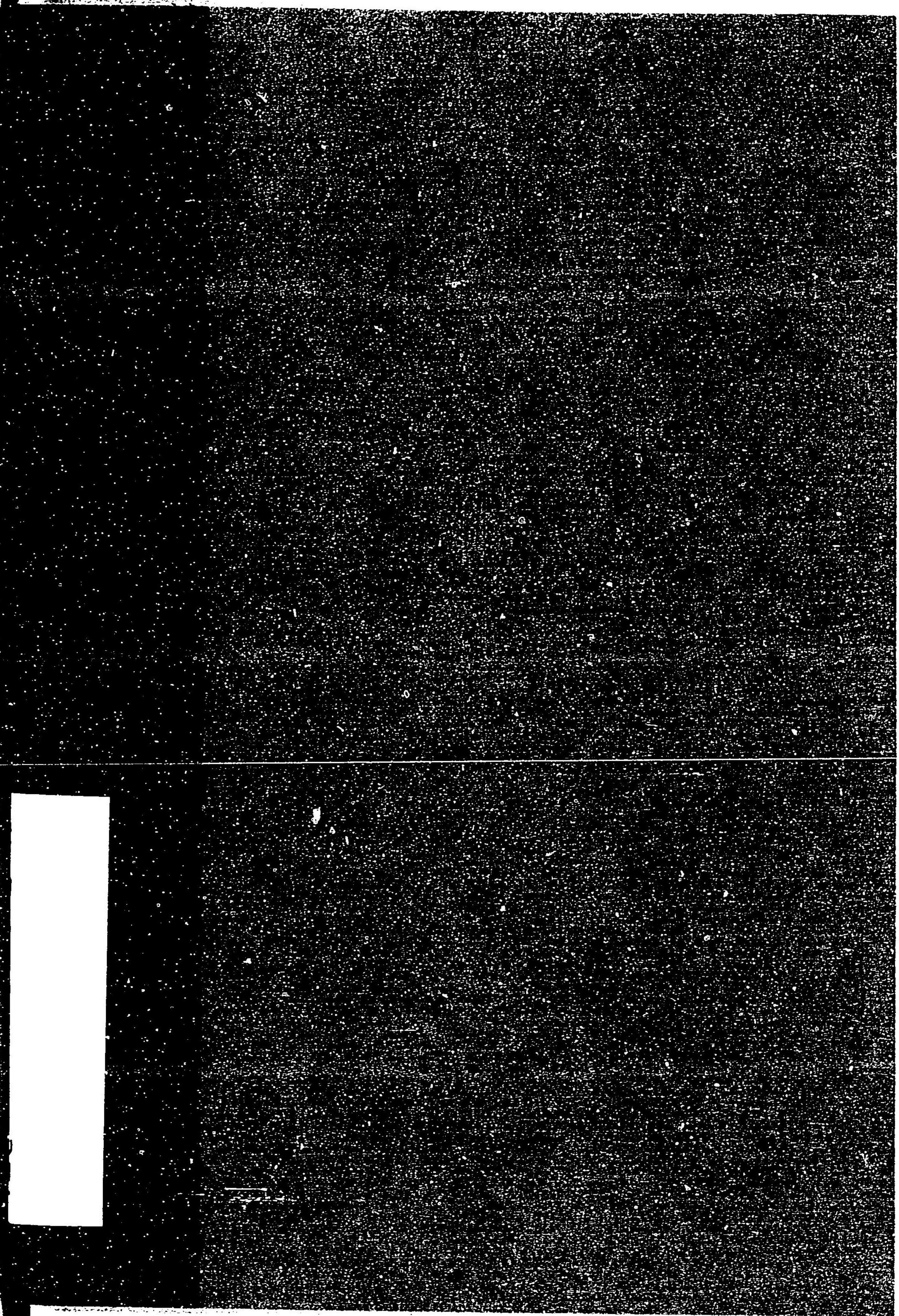
每編別以國文譯之、且細註解釋其法、格字義典、故、此所謂別出一機軸者非耶、是書一出、我知世人必以為破天荒之選也、幼童由是學焉、以作自家之文詩、其所益蓋不尠少也、トアルヲ以テ亦タ其初學ニ裨益アルヲ證スルニ足レリ

松本謙堂編

洋裝頗美本全壹冊  
實價金廿五錢郵稅金六錢

# 中等日本歷史

今や日本歷史の發刊前後續々として踵を接し一雨一晴春草の地を抜くが如しと難ども繁簡其宜さを得たるもの殆ど稀なり然るに弊館に於て發刊せし所の本史ハ我邦神人無別の太古に筆を起し明治昭代の今日に筆を止め是を上古、中古、近代、の四編に別ち以て國勢の變遷古今の沿革を明にし加之のみならず卷尾に續史の編を設け官制、文學、兵事、法律、貨幣、度量衡、曆法、農事、商業、金石、土木、織縫、醫術、書畫、諸工業、博覽會及び教法、宗派等百般必要の事項を簡約明晰に叙述し尙且つ諸官私立各學校に於て歴史科應試の用に供せんが爲め神世より以下每章に一々試験問題を掲出し答案を起すに便ならしめしが如きは洵も鐵中の鐸をたるものと謂ふ可し





特5 1

371

万国歴史問答

国立国会図書館

049661-000-7

特51-371

万国歴史問答(受験応用)

吉見 経綸/編

M25

BEM-0364

